

# One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信  
DOSHISHA UNIVERSITY

特集

座談会・

初年次における  
導入教育とは

「大学での学び」を  
実感する

●同志社人訪問  
外務省儀典長

楠本祐一さん  
に聞く



『ONE PURPOSE』は学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

## 大学の活動



### 特集・座談会

初年次における導入教育とは  
「大学での学び」を実感する ..... 2

同志社の研究は今 ..... 9

国内外の研究者が集うアジア研究の国際的拠点として  
・現代アジア研究センター 阿部 茂行 政策学部教授

データでみる同大生の2007年度就職戦線 ..... 11

2008年度 大学予算について ..... 13

CAMPUS NEWS ..... 15

日仏ダブルディグリープログラムで工学研究科2名に博士号を授与 / 「Imagine Cup 2008」日本大会のソフトウェアデザイン部門で工学研究科のチームが優勝! / 井原康夫生命医科学部教授が紫綬褒章を受章 / 経済学部生が環境教育教材「bidi」を完成 / 「竹岡塾」主宰 竹岡広信氏 新入学生歓迎特別講演会を開催 / 京田辺校地食堂リニューアルオープン! / 医心館竣工式 / 警上館竣工式 / 同志社大学の募金事業 / 本学教職員の執筆図書を紹介

## 在学生・教員の活動

OP COMMENTARY ..... 19

「世界に羽ばたけ」 海老根 直之 スポーツ健康科学部 専任講師

MY PURPOSE ..... 27

ルービックキューブ日本大会・ブラインド部門の初代チャンピオン〜ルービックキューブの楽しさ、面白さを広めたい〜  
荒木 慎平さん(文化情報学部3年次生)

## 卒業生の活動



INTERVIEW ～同志社人訪問～ ..... 20

外務省儀典長  
楠本 祐一さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～ ..... 23

・牧野 克彦さん(1999年商学部卒業)  
・須藤 谷寿子さん(2001年法学研究科公法学専攻博士課程(前期課程)修了)

ANNOUNCEMENT ..... 25



### 表紙の情景 [ 医心館 ]

4月、新たに生命医科学部とスポーツ健康科学部がスタートした。生命医科学部は、工学科、医情報学科、医生命システム学科から構成され、これまでの工学研究で培ってきた知識とノウハウをベースに医学や基礎生物学と融合させることで、多角的な医療とヒトに貢献できるプロフェSSIONALを育成する。そして、生命医科学部・研究科の拠点である医心館が、京田辺校地のリザーブ用地(R2)に建設された。地下1階、地上6階の教育研究棟で、世界的にもトップレベルの実験設備や研究機器を備えている。エントランス付近の広い空間には大きな窓から光が差し込み、明るく開放的な雰囲気だ。

特集  
座談会

初年次における導入教育とは

# 「大学での学び」を実感する

同志社大学では、新入生を対象とした導入教育に取り組んでいる。

これは大学での基礎的な学習法や主体的な学びの姿勢を身につけ、

高校から大学の学びへスムーズな移行をはかるための教育である。

文献の読み方やレポートの書き方、発表方法、コンピュータ操作を含む

情報リテラシーなどをはじめ、学部・学科がそれぞれの専門性を加味し、

少人数クラスで4年間の学びに必要なスキルの習得を目指す。

では、実際に履修した学生たちは、初年次での導入教育から

どのようなことを修得し、どのような成果を得ているのか。

今回は、社会学部、法学部、経済学部、商学部、政策学部の2・3年次生が集まり、

1年次で受けた各学部での導入教育について語り合った。



## ■始まりは友だちづくりから

●**私自身、教育開発センターで導入教育のモデルづくりに関わったこともあり、この機会に学生の皆さんから直に反応を聞くことができるのは嬉しいことです。良いところはもちろんですが、要望や改善点なども、さつくばらんに話してもらえればと思います。まずは、政策学部の高岡君から順番に、1年次にどのような授業を受けてきたか聞かせてください。**

●**高岡** 政策学部では、まず「First Year Experiment」(FYE)\*という科目があり、学部全体で400人ほどの1年次生が20数人ごとのクラスに分かれ、それぞれ担当の先生が付きまします。政策学部はそもそも自分たちで問題を発見して解決することを学ぶ学部なので、主として、問題を発見するためにはどうすればいいかということが授業の着眼点だったように思います。具体的には、パワーポイントの使い方を教えてもらったり、図書館など学内資源をグループで探索したりしました。僕としては、プレゼンテーションに力を入れていたような印象を受けました。

●**高** はい。基礎ゼミが週に2回あり、一方の曜日はコンピュータを扱う授業で、エクセルやワードなどパソコンの使い方、インターネットの利用などを学びました。もう一方の曜日は講義のクラスなのですが、小人数クラスでいろいろなことをしました。例えば私のクラスでは、マナー講座の先生が来られて、挨拶

の仕方や目上の人との接し方などを教わりました。他には、ゼミの予行演習のような形で、自分が調べたいことをレポート用紙2、3枚にまとめ、グループで発表するプレゼンテーションも行いました。私のクラスではありませんが、友だちのところでは図書館の使い方や学内探索をしたクラスもあったようです。経済学と直接関係することではないのですが、私自身としてはマナー講座で教わったことが一番有意義でした。就職活動で生かせそうです(笑)。



高岡 伸明さん  
政策学部3年次  
神奈川県・桐蔭学園高校出身



高 未希子さん  
経済学部2年次  
石川県立金沢泉丘高校出身



圓月 勝博  
教務部長・文学部英文学科教授

●**高** ささんは近畿圏外の出身ですから、最初は京都に知り合いもいなかったのではないかと思います。基礎ゼミが友だちづくりに役立ったということはありますか。

●**高** それはもうすぐ役に立ちました。一人暮らしで最初は本当に寂しくて、毎晩帰って泣いていたくらいですが、友だちをつくるには自分から声をかけないとだめだと思つて、周りの人に積極的に声をかけていきました。そんな時に基礎ゼミの小さなクラスは、本当にホッとするところがありました。プレゼンテーションをする時など、必ず男女混合のグループになりますから、女子だけでなく男子とも親しくなることができました。大学生生活で不安だった友だちづくりがスムーズにできたことは良かったと思います。

●**圓月** 社会学部は「ファーストイヤーセミナー」(FYS)という形で行われているのです。FYSでは、レポート作成やプレゼンテーション、ディベートなどを学ぶのですが、僕のクラスではレポートの書き方が重視されてきたように思います。3、4年次のゼミで学ぶための準備として1、2年次ではどういうことを勉強するのか、その目標を設定して学んでいくものです。社会学部の場合、そもそもと各学科100人もいませんから比較的親しくなるのも早いのですが、毎年、最初に新入生を対象にした1泊2日の合宿研修があります。具体的な内容を言うと、初日の昼に全員が集まってまず学科の説明を受けます。産業関係学科というのが具体的に何を学ぶところなのか、新入生にはわかりにくい面がありますからね。各先生から

のスピーチの後はレクリエーションがあり、そこですごく親密になります。1年次生同士もそうですが、サポーターに来ている3、4年次生と話せることが大きいですね。上の学年の人とはあまり話す機会がありませんから、授業のことや就職の状況などを教えてもらえるのはすごく役に立ちました。

●**圓月** 法学部は「リーガルリサーチ」ですか？

●**豎山** はい。「リーガルリサーチ」では、講義の聴き方から資料の探し方や読み方、レポート論文の書き方などを学びました。法律学科1年次生が履修し、法学の勉強方法を学ぶ授業です。私のクラスには先生のサポーターをしているスチューデントアシスタント(SA)の上級生がいたのですが、その人の紹介で、私自身も2年次になってSAをすることにしました。ですから、実質的に私は「リーガルリサーチ」を2回経験していることになりました。

## ■「教える」ことから学んだ

●**圓月** スチューデントアシスタント(SA)は、大学院生もしくは学部2年次生以上の学生が、授業の中で基本的な補助をする制度です。教員をサポートしたり、教員と学生の橋渡しをしたり、ディスカッションでうまく周りを引っ張っていく役割が期待されています。導入教育でもSAを活用することが一つの有効な手段だと考えられますが、教える側にとっても勉強になります。

●**豎山** 1年次では教えられる立場、2年次

になって教える立場になり、視点が変わってとても勉強になりました。1年次では見過ごしていたことを2年次でSAになって気づくことも多く、教えるというより逆に教えられたという感じです。「リーガル・リサーチ」はおおまかに分けて前半と後半があり、前半はグループで法律の勉強の仕方を学びます。後半は法律に関するテーマが5つほど設定されるので、そこから選んだテーマについて賛成か反対かの意見を法的な見方に基づいてレポートにまとめます。私は「情報とプライバシー」をテーマに、犯罪者の情報とプライバシーを公開すべきかどうかについて書いたのですが、本来は国内の判例を用いて最高裁の判決に対して賛成か反対かを書くべきところをいきなり外国の判例を用いてしまったという失敗を経験しました。ですので、2年次でSAになった時には、きちんと課題の意図をつかんで書くようにアドバイスしました。またそれに関連して、学内のデータベースから判例を取り出す方法も教えました。そうした1年次の法律学習が2年次秋からのゼミにつながっていくのですが、ゼミで学ぶようになって「リーガル・リサーチ」は本当に基礎の勉強をしていたのだと感じますね。

吉村●「Teaching is the best way of learning」とよく言いますが、まさにそのとおりの経験をしたのですね。ところで、商学部は「アカデミックリテラシー」(AL)と「ビジネス・トピックス」(BT)という形で行っていて、2007年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択され、全学の中でも導入教育のシステムが最



吉村 航二さん  
商学部2年次  
静岡市立清水商業高校出身



豎山 こよみさん  
法学部法律学科3年次  
同志社女子高校出身



服部 努さん  
社会学部産業関係学科3年次  
大阪府立南寝屋川高校出身

も整っているとされていますが、どうでしたか。

吉村●「アカデミックリテラシー」(AL)では、まず図書館の活用方法からスタートし、資料の調べ方を学びました。他にもSAをしている上級生から、大学と高校の違いやテスト勉強の仕方などをアドバイスしてもらいました。その後、20人程度のクラスの中で、5人の班に分かれ、20〜30の時事問題から選んだ1つの論題を調べて、最後の授業にプレゼンテーションをするのですが、僕らの班

は労働者派遣の制度の現状と問題点について発表しました。ALは主に大学の授業とは違うものかを知る授業ですが、「ビジネス・トピックス」(BT)は担当する先生の専門的な問題を取り扱います。僕のクラスの先生は保険制度が専門だったので、日米の保険制度や各国の福利厚生制度の違いについて、班ごとにディスカッションしました。

吉村●商学部では入学前教育と導入教育をつなげていますが、入学前にもレポートなどを提出したのですね。

吉村●はい、僕の場合は入学前に2つレポートを書きました。1つは最近の時事問題に関して1000字程度で、もう1つは商学部の先生方の研究テーマ一覧から自分が一番興味のあるものを選んで、その理由などを500字程度でまとめるといふものでした。当時は商学部の専門分野に関してほとんど何もわからないまま選んでいましたが、今なら1年間の授業を通じて自分の興味のある分野がだいぶわかってきました。

■学部の専門性にふれる

吉村●やはり専門的なことを学べるので、僕はBTの方が面白かったですね。

吉村●その意味で豎山さんが学んだ「リーガル・リサーチ」は、最初からかなり法学部の専門的なことに特化していると思うのですが。

豎山●そうですね、最初に先生から大学の勉強についておおまかな説明がありました。その後はすぐに法律の学び方に入っていました。法的なものの方や考え方のことを「リーガルマインド」というのですが、これを早くから身につけるようにしているのだと思います。

服部●服部君も先ほど、入学して間もない時期に産業関係学科についての説明を受けたと話していましたね。

服部●はい、産業関係学科では具体的にこういうことを学んだということがわかりました。専門の勉強とはあまり関係ないのですが、京田辺校地の近くにあるお寺に行ったことも僕の中では強く印象に残っています。その時に先生から同志社の歴史について少し教わったように記憶しています。

高岡●高さんが一番印象に残っていると言っていたマナー講習などは、学部の専門的な勉強というよりも、大人として知っておかなくてはいけないことを学んだのですね。

高岡●確かに、基礎ゼミの中では経済学に関する専門的なことはあまり取り扱われませんでした。ただ、ゼミの予行演習のような感じだったので、たぶん上級生になったらゼミでこういうふうに通じるんだらうなということがわかりましたし、ゼミを選ぶ時の参考にはなると思います。

高岡●政策学部では、勉強のテーマにしても同志社の歴史にしても、まずは自分たちで調べてくるように言われますから、発表



の前などはそれこそ必死で調べました。プレゼンテーションもコンペ形式で行われるので、どの班の発表が良かったかみんなに評価されるのです。限られた時間の中でいかに的確に内容を伝えるかが重要でした。

圓月●ちなみに高岡君は、高校時代にそういうプレゼンテーションをしたことはあったんですか？

高岡●いいえ、まったくありません。進学校でしたので、受験勉強一筋でした笑。

圓月●導入教育では、同志社の学生として

知っておかなければいけないことを教えるということと、その学部の子生として知っているべきことを教えるということの2つのバランスが難しいのですが、商学部では専門についてどのような勉強をしましたか。例えば、1年次でBTを学んだことで、2年次でこの科目を履修してみたくなったとか、モチベーションが上がったということはありませんか。

吉村●僕はBTで保険について勉強したのですが、それ以前は「保険は何かに入っている」という程度の認識しかなかったのが、実際に調べていく中で保険制度のバックボーンなどを知ることができ、一見よく知らないことでも勉強すれば面白いことがたくさんあるということに気づきました。だから2年次ではその中から関心の高いものを厳選し、さらにゼミにつなげていけそうな気がします。

圓月●社会学部ではどうでしたか。

服部●もちろん産業関係学科で勉強する内容については教わりましたが、社会学というのは経済や法律なども関係するとても幅広い学問分野です。産業関係学科では、主として「働く」という大きなテーマがあつて、ゼミの先生の専門分野に沿ってテーマを絞っていくわけですが、僕らのところは少人数ですから学生と先生との距離が近く、専門の内容についてもいろいろな機会を通して聞くことができます。自由というのか、幅広いというか、この勉強をしなければいけないという決められた枠のようなものが、社会学部では少ないように思います。

## ■自ら学ぶ姿勢が大切

圓月●導入教育を受けて役に立ったことを一つ挙げるのであれば何になるでしょう。

吉村●自分の持つ興味の幅が広がったということですね。高校までの授業は「今日は教科書の〇ページから〇ページまで勉強します」というふうにやるのが決められていて、学生もそれに応じて予習復習をするという形で勉強を進めていたのが、大学ではどこまで勉強すればいいのか、どこまで調べればいいのか、まったく決められていない。正直な話、自分がやらなければやらなくても済みます。それに応じた評価がすぐだけですが、でも、勉強していくうちに自分の知らなかったことがわかってきて、いろんなことに興味を持つようになったことが大きいです。

圓月●導入教育というのはその名の通りで、そこで結論を出すというよりも、こういうことを勉強するんだ、こういうふうに勉強しななくてはいけないんだ、と気づいてもらうことが大きな目的です。その意味では、吉村君はすごくうまく進めた例ということでしょうね。豎山さんの場合はいかがですか。

豎山●ある事件やテーマに対して、賛成か反対かを含め、自分の意見をしっかりと持つことが大切だと気づきました。しかもその理由を感情ではなく、論理的に考えるということでしょうか。私は今、民法のゼミに入っているのですが、ゼミではそういうことが重視されるので、1年次でそういうことを学べたのはすごく役に立っていると思います。

圓月●服部君はどうでしたか。

服部●やはり自分から学ぶ姿勢ですね。例えば、文献を読んでそれについて説明する、プレゼンテーションするという課題があったとして、自分で動かなくても授業さえ聞いていけばある程度はこなせます。でも、調べていくことでどんどん自分の身につけていくと思うのです。ある問題を取り上げる時、先生でもこうだと結論を一つに断言できないわけですから、先生も僕らと一緒に考えていく。そしてみんなで議論していく。こういう学びは高校の時にはまったく経験しなかったものですし、楽しかったですね。

圓月●高校では正解を出すためにどうするかということを一生涯勉強しますが、大学の勉強は違うわけですね。人生や実社会には正解のない問題の方が多いですから、正解のない問題を探して考えるということがとても大切です。そういう意味では服部君は良い勉強をしたと言えるでしょうね。

高●大学では自分から積極的に行動を起こし、何を吸収していくかが重要だと思えます。基礎ゼミのプレゼンテーションでも、適当に済ませて終えようと思えばそうできますし、本当に自分が興味のあることを調べたいと思えばいくらでも調べることが出来ます。他のグループでは、興味がなくて言われたことをやるだけという人もいましたが、私はそれではもったいないと思うのです。何にも興味を持ってないという人はいないと思うし、自分が興味のあるものを探すと、姿勢が大事なのだと思います。

圓月●興味の対象を積極的に自分から探していくという姿勢は、大学で学ぶ場合にと

でも重要なことです。それに気づいたということが、まさに高さんにとって大きな成果だったのですね。高岡くんは何が一番収穫でしたか。

**高岡** F Y Eで、自分にとって一番役立ったのはパソコンのスキルです。高校時代にはほとんど触ったことがなかったの。また、1年次で「Communication Method in Japanese (C M J)」\*という授業を受けたのですが、ディベートを通して、いかに人に物を論理的に伝えるのが大切かということ学びました。

■授業に対して望むこと

**圓月** 導入教育を受けて、良い面ばかりでなく、足りないところ、もっと教えてほしいことはありましたか。

**吉村** B Tに関して言えば、商学部は1学年で800人ぐらいいて、大半の学生が履修を希望しているようです。今のところ、必ずしも全員が履修できるわけではないので、希望者全員が履修できるようにしたいと思います。

**服部** 僕はパソコンをほとんど触ったことがなくて苦労しました。わかっている人もいるのですが、僕のようにわかっていない人にとっては、一からパソコンの説明書を読むわけにもいかないし、課題にすぐく時間がかかってしまいます。それからグループワークでは、欠席する人がいるとグループ内の作業が進められず、少し困ったこともありましたがね。

**高** 私の場合は中高の授業でもパソコンを使っていたので、ある程度パソコンの扱いに

は慣れていたのでありますが、それでもコンピュータの授業は進むのが早くて焦りました。大学で新しく習うこともありまますから。そのうち慣れましたが、あまりパソコンに触ったことがない人はもっと大変だったと思います。

**高岡** 政策学部でもパソコンのスキルの差は激しかったですね。F Y E担当の先生でも専門分野が異なるのですが、僕のクラスの先生は情報系に強かったたので丁寧にご教えてもらえた方だと思えます。ただ、他のクラスではディベートが中心だったり、クラスによって授業内容が少し違うようでした。先ほどS Aの話がありました。S Aの制度はあるんですけど、僕が先生「S A」という感じ(笑)気軽に質問していました。

**圓月** ところで、導入教育では成績評価が難しいという面があります。皆さんにそれぞれの学部の成績評価の基準を含めて、自分の成績評価に納得しているかどうかを聞いてみたいのですが。

**吉村** 商学部では、原則的に出席していれば単位は取得できるのではないのでしょうか。あとはディスカッションで中心になって発言しているか、議論が進むような発言をしたか、プレゼンテーションでどれだけ貢献したかというようなことを、先生が判断しているのだと思います。僕自身は自分の評価には納得しています。

**豎山** 「リーガルリサーチ」では、ディスカッションの様子や最後に提出したレポート、あとは出席が評価の基準になるのだと思えます。やはり一番大切なのは、出席して授業を

聞いて、頑張つてレポートを提出することではないでしょうか。

**服部** 社会学部でも基本的には同じだと思うのですが、まず出席とディスカッションの内容です。僕が思うにはレポートの内容よりもディスカッションの方に重きが置かれていたような気がします。僕自身あまりレポートは得意ではないのに、良い点をもらいましたから(笑)。やはり大学の授業ですから、ディスカッションで自分の意見を発言しないと、出席しているだけでは上位の方にはいけないような気がします。



**高** コンピュータの授業では毎回課題が出されて、次の授業までに仕上げておくことになっていましたので、やはりそれをきちんと出さないと単位はもらえないのではないのでしょうか。講義の授業では、出欠とプレゼンテーションとレポート。レポートは必ず提出してくださいと言われました。当たり前ですが、課題はきちんと提出しないとダメですね。

**高岡** 政策学部のF Y Eは、「合格」か「不合格」の評価です。欠席が多かったら不合格になるのですが、僕の周りでは不合格になった人はいませんでした。

■人間的な成長の機会として

**圓月** では最後に、新入生もちょうど大学生活にも慣れてきた頃だと思うので、先輩として何かアドバイスがあれば。

**服部** F Y Sは人数も少なくアットホームな感じなので、高校の延長みたいなところもあります。そのぶん楽しめると思うのですが、そこから自発的に勉強する意欲を持つていけば、しつかり2年次、3年次につなげていくと思います。

**豎山** リーガルマインド的な考え方で言うと、最近起こっているさまざまな事件について友達同士で議論し合ったりして、そういう中から自分の考えを整理していけばいいと思います。

**吉村** 大学でどんなことを学ぶのか、学部でどんなことを学ぶのかは、1年次でいただいたことができると思えます。でも、自分が何をやりたいかは、単に先生に聞きに行つてわかるものではありません。やはり自分で時事問題について勉強したりいろんな人と話をしたりして、導入教育を何かに興味を持つきっかけにしてほしいですね。

**圓月** 皆さんのお話を聞いていると、導入教育の良いところは、大学生活において人間関係を築く第一歩になっている点ですね。すべての学問は知識だけではなく、自己研鑽や人間的成長も一つの目標ですから、その機会になっていると学生の皆さんが感じてくれているのなら、この取り組みもうまく機能していると言えるのかもしれない。今日は長時間にわたり、ありがとうございました。

\*カリキュラム改正により、2008年度から「Academic Skill」(AS)の一つとして開講

学びの転換期を支援し、主体的に学ぶ姿勢を身につける

初年次導入教育とは一般的に、高校から大学への学習面、生活面を含めて円滑な移行をめざすための教育だと定義できま  
す。要するに、大学に入学してきた学生の  
転換期を支援する教育です。教育開発セン  
ターでは、2006年度まで導入教育部会  
(2007年度から教育効果向上部会に改  
組)を設け、本学の各学部で行われている教  
育内容を調査するとともに、米国の大学の  
初年次導入教育の先行事例などを分析し、  
同志社独自の教育モデルの開発を検討して  
きました。

教育の目標とするところは大学によって  
異なりますので、それぞれの大学がどうい  
う学生を育て、どういう人物を社会に送り出  
そうと考えているかで、初年次・導入教育の内  
容は異なっています。同志社大学の場合は、  
新島襄の建学の精神や教育理念を核にし  
て、学部・専攻の専門教育へつなげ、最終的には  
学んだことを社会に還元してほしいと考  
えています。そのためにはそれぞれの学部教育  
の中で、目標に合わせた学生の育成を1年目  
にきちんと意味づけなければなりません。

本学の場合、教養学部ではありませんか  
ら、専門学部の中の初年次という位置づけに  
なりません。ただし、教養の部分も大学生にと  
って非常に大切ですから、汎用性があり、しか  
も専門教育につながるような内容を1年次  
で学ぶ必要があります。それがいわゆるレポ



山田 礼子  
教育開発センター所長・  
社会学部教育文化学科教授

ートの書き方、プレゼンテーションの方法、デ  
ィベートの進め方といったことから始まるの  
です。また、初年次導入教育では、学生たち  
の居場所としての少人数クラス編成も大き  
なポイントとなります。グループ学習で調査  
や発表をしていくわけですから、学生同士の  
相互のコミュニケーションはもとより、大学に  
おける実質的な学習効果にもつながってこ  
ます。

こうした初年次導入教育が、実際に多く  
の大学で取り入れられるようになったのは、  
大学の大量化と学生の変容が背景にありま  
す。かつて大学への進学率が20%程度だった  
時代は、大学に入ることに對して何らかの意  
思や決意が必要でした。しかし、おおよそ半  
数が大学に進学する今の時代では、大学に  
行くことがある種の通過儀礼になっていま  
す。そういう中で大学に入ってくると、この授  
業を履修したいというのではなく、必修科目  
に定められているから出席するというよう  
な生徒化現象が起こってきます。教員から教  
えてもらって当たり前という受け身の姿勢  
になるのです。でも本来、大学生はそうでは  
なかつたはずで、自分で選択を行い、自分  
で学ぶことを決めなければいけない。ですから、  
初年次導入教育を通して、主体的に学ぶ姿  
勢を身につけてほしいと考えています。

少人数のグループワークで  
学びのスキルを培う

政策学部では、新入生のオリエンテーシ  
ョン科目として、「First Year Experience」  
(FYE)を実施しています。20人程度のク  
ラス編成で、最初にそれぞれのクラスのア  
ウトラインを配布、FYEの目的やクラス  
で行う授業の概略を周知した後、3〜4人  
単位のグループごとにそれぞれ異なるテ  
ーマを設定します。このグループワークが  
特徴的で、問題発見から調査、プレゼンテ  
ーションまで、そのグループで完結させる  
ことを基本としています。

例えば、私のクラスでは学内資源の探索  
をテーマの一つにしていますが、これまで  
の例では、新町と今出川の食堂の比較をし  
たグループもありましたし、4年間を今出  
川校地で過ごす政策学部生にとつてあま  
り馴染みのない京田辺校地の施設探索を  
行ったグループもありました。そして、それ  
ぞれプレゼンテーションを行い、最後にコ  
ンペ形式でどのグループの研究発表が良  
かつたかを投票で決定しています。また、キ  
ャリアイメージの形成として、著名な方や  
一般企業の方などをゲストスピーカーにお  
招きして「クラス単位の講演会」を開催す  
る一方、入学直前に学生たちが自分の将来  
の希望を書いた文章をもとに個人面談を  
して、それぞれの将来の具体的なイメージを  
つかみ、学習計画を立てるサポートをして  
います。クラスによって授業内容が多少異

なるものの、政策学部の学生はこうして、  
FYEの授業を通じて学生同士の懇親を  
深め、個人面談を通して教員との関係も深  
めていくのです。

2008年度からカリキュラムを改正し、  
基礎能力を養成する科目「Communication  
Method in Japanese (CMJ)」「Communication  
Method in English (CME)」「Academic  
Method (AM)」は、今年度からAcademic  
Skill (AS)に集約されます。ASは文字  
通り、学びのスキルを磨くもので、1年次  
の後半から英書講読やコンピュータによ  
る統計分析など、クラスごとのテーマに基  
づいて基礎的な能力を身につけます。読解  
力、分析力、構想力、プレゼンテーション力  
など、ゼミが始まるまでに基礎のトレーニ  
ングはしっかり積んでおくというのが、A  
Sの理想としていこうです。

2004年の開設から5年目を迎え、政  
策学部を選ぶ学生はある程度こういうこ  
とを勉強しないとイケないという覚悟を  
持つて入学してくるようになりました。1  
年次から比較的高度な内容を要求しま  
す。今ではほとんどの学生が違和感なく取  
り組んでいるように思います。



多田 実  
政策学部教授

## 自ら学ぶ意欲がスキルの習得や成長につながるっていく

商学部の初年度における導入教育は入学前から始まっています。合格してから入学するまでの間に、学部の特科科目に関連したテーマに自ら疑問点を挙げレポートを作成、提出することになっています。商学部の学習に関連する新聞記事や推薦図書もあわせて紹介しています。これらは商学部の学習内容にいち早く関心を持ってもらうことを目的としています。提出されたレポートは入学後、添削をして返却し、レポートの書き方を指導する教材として活用しています。

そして初年次の1年間にわたって行われるのが、「調べる」「書く」「発表する」「議論する」という基本技術の習得を目指す「春学期のアカデミック・リテラシー（AL）」と、担当教員の専門領域を生かしながら、商学部生としての学習意欲と問題意識の喚起を目標とした秋学期のビジネス・トピックス（BT）です。ALは約40クラスあり、希望すれば全員が履修できます。BTは約20クラスの開講なので選考になるのですが、年ごとに人気は高まっているように感じます。どちらも必修科目にはしていません。なぜなら、履修を義務づけて強制的に学ばせるよりも、自ら興味を持って学びたいという学生を迎え、さらにその意欲を引き出す狙いがあるからです。結果的には、昨年度のALの履修者の割合は2007年度生の



大原 悟務  
商学部専任講師

の96%に達し、新入生のニーズにうまく対応できているものと考えています。一方、BTでは工場や企業の見学など、ビジネスの現場で学ぶフィールドワークを行うことも多くあります。現場や現物にふれることで、学生の関心がより高まることを期待しています。

1年次終了時には全員を対象に大学生活に関するアンケートを実施しています。その結果を見ると、ALやBTを履修した学生が増えるにしたがって、自分自身の成長度を高く評価する学生も増えてきたことがわかります。商学部のこうした取り組みは「学生と教員の幸せな出会いをめざす導入教育」として、2007年度に文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択されました。評価された点としては、入学前教育とリンクさせていること、教育効果を測定して科目内容を発展させてきたこと、担当教員が科目運営委員会を定期的に開催して教育内容の共有化やスキルアップをはかっていること、導入教育を専門的に担当する教員を採用していることなどが挙げられます。これらのことが学生の授業満足度を高いものにしており、思われますが、商学部では今後ともさらなる充実化をはかっていきたいと考えています。

## レポート課題で自分の考えを表現する力を磨く

社会学部では1年次生向けの導入教育として、「ファーストイヤーセミナー（FY S）」という科目を設けています。産業関係学科では、最初の1、2回は学科全体で合同授業をして、大学生として学習に取り組みするための基礎的なガイダンスを行います。産業関係学科の研究領域を紹介し、学習するテーマについて具体的なイメージを喚起します。その後、15人程度の個別クラスに分かれ、担当教員のきめ細やかな指導のもと、文献の探し方やレポートの書き方などを学びます。そして、それが一段落したら、再び合同授業が4回ほど続き、それぞれの教員の専門分野から1年次生にふさわしいテーマを選んで講義をしています。

産業関係学科では、比較的レポート課題を多く与えています。これは大学生にとって、自分の考えをまとめて表現するという能力がとても重要だからです。レポートを書く際に注意しなければならないのは、単なる感想文で終わることのないよう、データや文献など客観的な資料を用いて論理的に組み立てることです。レポートは担当教員が採点し、その基準や結果を授業中に説明するようにしています。そのような経験を重ねることで、必然的に大学生としての基礎力が身についていくのです。また、私のクラスでは、自分が書いたレポートの内容をパワーポイントを使って発表し、お互いに批評し合って自分の力を認識できるような工夫もしています。

産業関係学科では、春学期にFYSで学んだことを、秋学期の「産業関係基礎論」につながる形で学習の継続性をはかっています。さらに2年次では「産業関係文献演習」という科目を設け、20人程度の小クラスでプレゼミを行っています。文献を読み込む力を徹底的に身につけて、2年次の最後には「産業関係基礎論文」という論文に近い水準のレポートを書き上げることによって、3年次からのゼミにつなげていくのです。

また、社会学部の特徴の一つとして、4月上旬に学科ごとに1泊2日のオリエンテーション合宿を行っています。授業ではありませんが、緊張を解きほぐして友人をつくり、上級生に登録などの相談をする貴重な情報交換の場になっているようです。高校までの勉強と大学での勉強の大きな違いは、受け身で教わるものではないということです。自分で課題を見つけ、それを学問的な手法で追求していく。そして、その成果を周囲と共有したりフィードバックしたりすることが、大学での学びの本質だと考えています。



浦坂 純子  
社会学部産業関係学科准教授

# 国内外の研究者が集う アジア研究の国際的拠点として

## 現代アジア研究センター

グローバル化の流れがますます勢いを増す中、近隣アジア諸国とのFTA・EPA(自由貿易協定・経済連携協定)など経済的・政治的連携の制度作りや、貧困の撲滅、環境保全、人材育成、女性の役割、都市化、統治と規制など、喫緊の研究課題は多い。こうした課題に対して、国内外の研究者の知恵を集め、幅広く国際的な視野に立った学際的研究を進める核として、2005年5月、同志社大学に「現代アジア研究センター」(CCAS)が開設された。アジア研究の地平を開拓するとともに、同志社大学の国際化の一翼を担う同センターの活動について、阿部茂行センター長(政策学部教授)に伺った。

著しい経済成長を遂げてきたアジア地域への研究関心は近年特に高く、国際的かつ学際的研究が多く発表されています。同志社大学ではアメリカ研究の充実が内外によく知られていますが、アジア研究にはあまり力が入っていないという印象が持たれていました。しかし実際は、学内でも多くのアジア研究者が独創的研究を行ってきました。ただ、個人での研究には限界もあり、研究のスピードと幅広さが要求されるこの分野では国際的学際的研究がますます重要になってきているのも事実です。こうした研究を推進するためにも、学内外の研究者が定期的に共同研究を行える枠組みが必要とされてきました。こうして、世界の研究機関と連携をはかり、最先端の共同研究を実施するために、そして世界に向けて情報を発信するために、アジア研究の関西の拠点を目指した「現代アジア研究センター」(CCAS)が2005年5月に発足しました。

現在、CCASには約70人の研究者がメンバーとして登録しており、アジアの地域統合、生産流通ネットワーク、金融政策協調、社会福祉、労働人口、環境など幅広いテーマで研究を進めています。メンバーの研究分野は経済学、ビジネス、社会学、政治学、歴史等と人文社会全般をカバーし、地理的にも欧米、オーストラリア、アジア各国と幅広いものです。多くのメンバーがさまざまな形でCCASの活動に携わっています。

CCASの活動は主に、海外調査を含む研究プロジェクトの推進、セミナー・講演会の開催、論文著書の執筆、国内外の研究機関との連携、学芸活動の支援などです。CCASではこれまでFTA・EPAに関する研究に力を入れてきました。NAFTA(北米自由貿易協定)とEU(欧州連合)の狭間のアジアにおいて地域統合をどう進めていくかというテーマで、多くの研究者とこの数年間共同研究を実施してきました。この研究は京都大学東南アジア研究所の拠点大学プロジェクトの支援を受け、資金を含めてそのネットワーク資産を継承しています。2006年10月に海外から20名の研究者を招いて50人規模の国際会議を開催したのがそういった研究活動の一つです。この成果は「*Emerging Developments in East Asia FTA/EPA*」(京都大学東南アジア研究所モノグラフ)にまとめました。EUの経験からみたアジアの統合、アジア統合の計量分析、マレーシア、タイ、CLMV(後発ASEAN諸国)、シンガポール等からの個別の問題提起、そして重要な金融協調に関する議論が

定期的開催しているセミナーの様子。2007年度だけでも17回の開催があった。海外からの訪問者も多く、意見交換の場を積極的に設けている。



2008年1月16日、木村福成氏を招いて開催した講演会「東アジア経済統合と経済協力の役割」



あり、実際に政策に関わった参加者の現実的な指摘もあつて、意義深い議論が行われました。アジアではその前年に、ASEAN+3+3(ASEAN+中国・韓国・日本)を核にオーストラリア、ニュージーランド、インドを加えた16カ国で構成するASEAN+3+3の第1回東アジアサミットが開催され、まさに東アジア共同体を中心にさまざまな議論がなされ始めていた時期です。この会議で、実際の現場からの声、エキスパートからの各国の統合についての詳細な報告は傾聴に値するもので、ともすれば理論やデータのみ議論をしがちな研究者にとって刺激に満ちたものでした。2008年3月には同様の研究成果として、京都大学出版会「Transpacific Pressから*East Asian Economics and New Regionalism*」を出版してこま。

CCASでは多くのセミナーをこれまで開催してきました。ほとんどは大学院生を含む研究者向けの小人数のもので、海外からの研究者を招いて英語でとことん議論するというスタイルをとっています。2007年度はこのようなセミナー開催が実に17回におよびました。発表論文はすべて最新の



阿部茂行「政策学部教授」



もので、セミナーでの議論を参考にWorking Paperにしたり、雑誌に投稿したりすることもになります。実際、個人の研究にしても共同研究にしても、こうしたセミナーで発表し、コメントされることが一番重要な研究プロセスです。CCASが多くのセミナーを開催する理由もここにあります。

研究活動の成果を社会に還元することもCCASの大きな仕事です。CCASでは、一般を対象にした講演会をこれまでに数回開催してきました。2005年には駐日韓国大使を招き、「韓日関係と東アジア協力」、2006年には世界をリードする3名の学者に「経済統合からみたアジア」につ

いて講演していただきました。パネリストの一人、チャロンポップ博士は、講演会の直後、タイの財務大臣に就任されました。2008年1月には政策学部と共催で、慶応義塾大学教授の木村福成氏を迎えて「東アジア経済統合と経済協力の役割」と題した講演会を行い、学部生も含めた大勢の参加がありました。

CCASには、実際に自国の政治に携わったメンバーが多数います。マレーシアのマハティール政権下で実際にFTAの交渉に当たっていた人物もいれば、タイ外務省の顧問を務めていた人もいます。理論的な研究者だけでなく、実際にそれを政策として実践した経験

を持つ人たちが加わることで、講演会や研究会の内容が充実し、アジアを身近に感じることができます。CCASの情報発信は主にホームページ(<http://cas.doshisha.ac.jp/>)で行っています。ほぼ毎週更新しており、活動を広く紹介し、研究成果であるWorking Papersやアジアでの現地調査の写真を公開しています。Working Papersは原則英語で発表していますが、これまでに14編がアップされ、このうち数編はすでに国際専門誌への掲載が決まっています。

また、国内外の研究機関との連携も活発に行っています。2005年4月から3年間、民間の関西社会経済研究所と共同で、「東アジア統合経済圏と関西の役割に関する研究」というプロジェクトを進めました。ほぼ毎月研究会を開催し、CCASメンバーの数名が参加、関西企業とアジアの関係をどうするかについて考え、必要に応じて海外調査も行いました。民間企業の人たちと上海で日系企業を調査した経験は、得られる情報の多さという点で貴重なものでした。East Asian Development Networkの活動についてはTDRI(タイ開発研究所)と協働していますし、シンガポールのISEAS(東南アジア研究所)やSCAPE(シンガポール応用政策経済研究センター)とも日常的に研究交流を行っています。こうした外部とのパイプを持ちながら多角的な活動を展開しているのもCCASの特色の一つです。

学会活動の支援ということでは、これまでに同志社大学でアジア政経学会の関西大会を開催したことが挙げられます。また自身は、EAEA(東アジア経済学会)の国際的に評価の高い学会誌Asian Economic Journalの編集長を引き受けています。EAEAの世界大会を今年11月マニラで開催しますが、多くのCCASメンバーもそこで論文を発表する予定です。

日本にとって、今やアメリカよりアジアの方が貿易相手としても大きな存在になっています。中国、インド、東南アジアなどの世界における存在はきわめて大きく、アジアの総合的な研究は今後ますます重要になってきます。CCASでは今後も引き続き、アジアの経済協力などをテーマにさまざまな研究機関と連携し、内外の研究者と共同研究を行い、研究成果を共有していきたいと考えています。幸いなことにCCASはすでに国際的に認知されはじめており、昨年からサバティカル(長期研究休暇を利用した海外からの研究者が1ヵ月、2ヵ月とCCASに滞在して研究生生活を送っています。今年も12月にシンガポールからの研究者が1ヵ月滞在する予定です。CCASではこのような共同研究を今後ますます推進し、その成果をインターネットで発信するとともに、内外の皆さんに興味を持って頂けるような講演会も数多く開催する予定です。当センターが目指すのは、内外のアジア研究者が気軽に集える関西の研究ハブとなることです。が、一歩一歩その足場を固めているというのが現状でしょうか。ぜひ、CCASのホームページをご覧頂き、いろいろなご意見をお寄せ下さい。

# データでみる 2007年度就職戦線

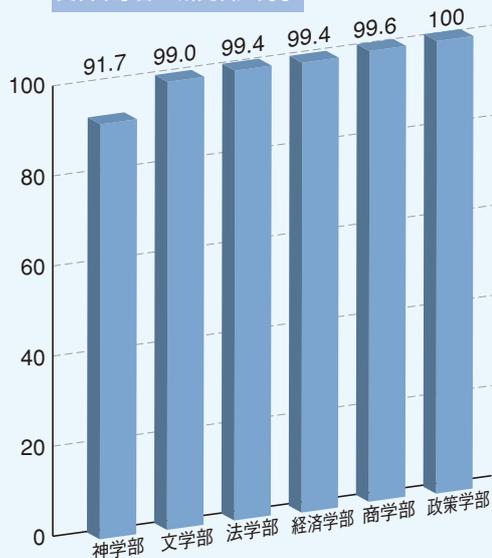
## 同大生の

2007年度の就職状況は、就職率99.3%とバブル期を超える高い数字となりました。しかし、社会の変化の中で、企業は今後ますます、外国語運用能力、情報活用能力、人間関係を結ぶコミュニケーション能力、さらには問題発見解決能力など、自ら考え行動し成果をあげることができる潜在能力を持った自立した人材を求めています。このような変化の中で、みなさん自身がより高いキャリアを形成するためには、目的を持ち勉学やクラブ活動に充実した大学生活を送ることや、**インターンシップ(注1)**など学外の体験学習を通じて社会の動きを理解することが大切になります。

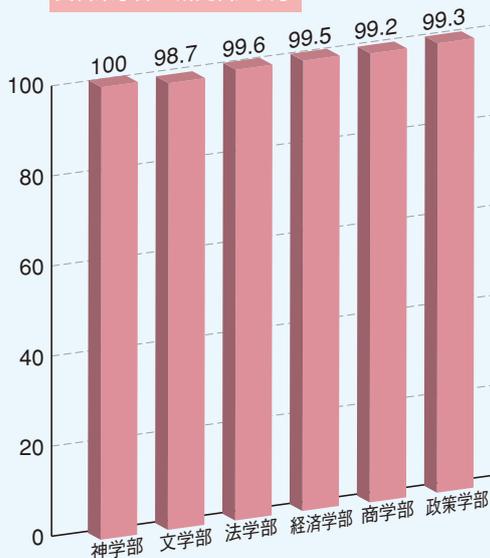
### ■就職率

$$\text{就職率} = \frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$$

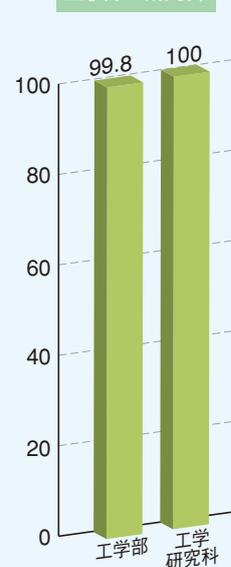
文科系学部・研究科／男子



文科系学部・研究科／女子



工学部・研究科



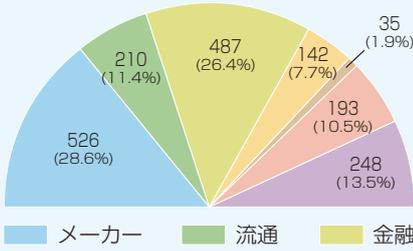
### ■主な就職先と人数

会社名と人数

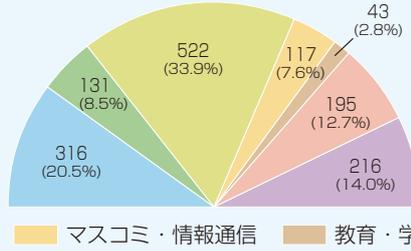
日本生命保険	68	京セラ	16	アストラゼネカ	8	リクルートスタッフィング	7	大塚製薬	5
京都銀行	55	ダイハツ工業	16	阿波銀行	8	ローム	7	岡谷鋼機	5
三菱東京UFJ銀行	55	三菱重工業	16	エーザイ	8	あいおい損害保険	6	川崎重工業	5
みずほフィナンシャルグループ	54	スズキ	15	NECシステムテクノロジー	8	愛知銀行	6	キャリアデザインセンター	5
三井住友銀行	52	豊田自動織機	15	キヤノンマーケティングジャパン	8	旭化成ホームズ	6	キリンビバレッジ	5
東京海上日動火災保険	43	オリックス	14	京都市	8	旭硝子	6	近畿大阪銀行	5
シャープ	42	京都中央信用金庫	14	京都府	8	アメリカンファミリー生命保険会社	6	グンゼ	5
損害保険ジャパン	38	野村総合研究所	14	クボタ	8	九州旅客鉄道	6	KDDI	5
日立製作所	30	三菱電機	14	資生堂	8	国民生活金融公庫	6	四国電力	5
国家公務員II種	27	りそなホールディングス	14	新光証券	8	小松製作所	6	静岡銀行	5
大和証券グループ本社	27	アイシン精機	13	ソニー	8	サイバード	6	新生銀行	5
野村證券	27	住友信託銀行	13	ソフトバンクグループ通信3社	8	島津製作所	6	新日本製鐵	5
日本電気	26	大日本印刷	13	TIS	8	JTB西日本	6	ジャルエクスプレス	5
関西アーバン銀行	25	キヤノン	12	東海旅客鉄道	8	十六銀行	6	スタッフサービスグループ	5
滋賀銀行	25	裁判所事務官II種	12	西日本旅客鉄道	8	住金物産	6	住友林業	5
南都銀行	25	明治安田生命保険	12	ニッセイ同和損害保険	8	積水化学工業	6	但馬銀行	5
日本郵政	25	SMBCFフレンド証券	11	日本興亜損害保険	8	そごう	6	東京部	5
リクルート	22	関西電力	11	阪急百貨店	8	大和ハウス工業	6	東芝	5
池田銀行	21	京都信用金庫	11	百十四銀行	8	帝人	6	豊田通商	5
松下電器産業	20	サントリ	11	マツダ	8	TOTO	6	トヨタ紡織	5
住友生命保険	19	武田薬品工業	11	みずほインベスターズ証券	8	日産自動車	6	名古屋銀行	5
全日本空輸	19	日本アイ・ピー・エム	11	ヤンマー	8	日本通運	6	西日本シティ銀行	5
大同生命保険	19	日本基督教団	11	ユニクロ	8	日本航空インターナショナル	6	日本総合研究所	5
トヨタ自動車	19	エヌ・ティ・ティ・データ	10	大阪府	7	ニュートンフィナンシャル・コンサルティング	6	日本ヒューレット・パッカード	5
村田製作所	19	商工組合中央金庫	10	オムロン	7	ペイカレント・コンサルティング	6	パナソニック	5
キーエンス	18	積水ハウス	10	関西ペイント	7	村田機械	6	百五銀行	5
第一生命保険	18	神戸製鋼所	9	紀陽銀行	7	山善	6	富士通	5
日興コーディアル証券	18	国税専門官	9	泉州銀行	7	ヤマハ発動機	6	フューチャーアーキテクト	5
ダイキン工業	17	高島屋	9	大王製紙	7	IHI	5	ブラザー工業	5
デンソー	17	大日本スクリーン製造	9	中央三井トラスト・グループ	7	愛知県	5	ベネッセコーポレーション	5
本田技研工業	17	西日本電信電話	9	福岡銀行	7	アップ	5	三菱樹脂	5
松下電工	17	任天堂	9	プリヂェン	7	イオン	5	山口銀行	5
三井住友海上火災保険	17	広島銀行	9	三井住友カード	7	伊藤忠商事	5	リクルートエージェント	5
インテリジェンス	16	堀場製作所	9	三菱UFJ信託銀行	7	大垣共立銀行	5	ワコール	5

## ■業種別内定状況

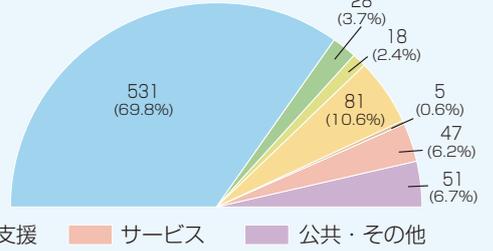
【文科系学部・研究科男子】(人)



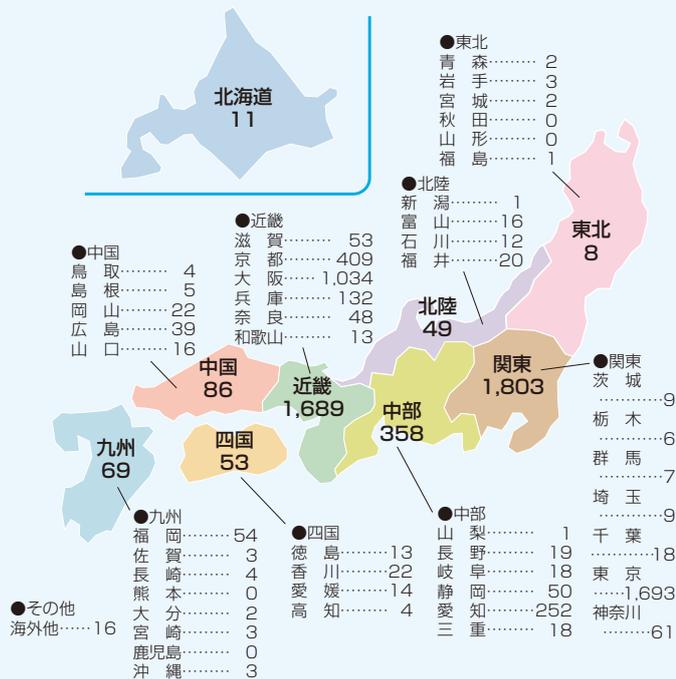
【文科系学部・研究科女子】(人)



【工学部・研究科】(人)

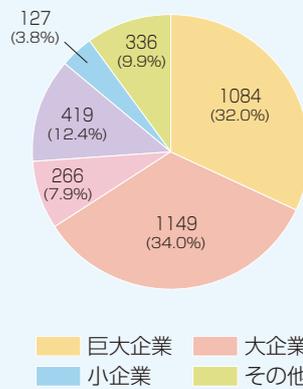


## ■地区別内定状況 (人)

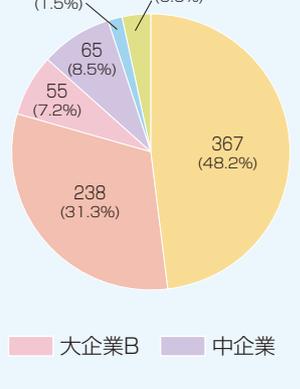


## ■従業員規模別内定状況

【文科系学部・研究科】(人)



【工学部・研究科】(人)



(注) 巨大企業=従業員5,000人以上 大企業A=1,000人以上  
大企業B=500人以上 中企業=100人以上 小企業=100人未満

※データは2007年度確定数

### (注1) インターンシップ

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学では正課科目「キャリア形成とインターンシップ」を2クラス開講しています。学生が大学で学んだ社会の諸課題と、その問題解決に向けての考え方、専門知識・理論との総合をはかり、その経験を通じて、より高い学習意欲を喚起しています。同時に、仕事、職業に対する興味・関心を高め、自らの適性や適職を考える大きな契機となることを願っています。その他にも企業主導型(公募制)のインターンシップもあり、キャリアセンターホームページ「仕事蔵(しごとぐら)」(<https://shushoku.doshisha.ac.jp/shushoku/internship/index.htm>)でその一部を紹介していますので参考にしてください。



### 1日インターンシップ

1・2年次生向けに1日企業訪問する課外講座を実施しています。事前研究、グループワーク、企業訪問、卒業生との交流セミナー、事後レポート、成果報告会などを行う、トータルなキャリア形成プログラムです。動くことに対して学生の抱いているイメージと現実とのギャップを埋めるとともに、業界や社会の現状を認識し、大学生活における目的意識や知的好奇心の向上を図る絶好の機会となっています。関西圏だけでなく東京圏も企画され、マスコミコース、メーカーコース、官庁を訪問する霞ヶ関コースが実施されて盛況でした。2008年度も実施する予定です。

#### 参加者の感想

インターン全体を通して、固定概念で物事を決める危険性を痛感した。実際に会社に足を運んで、その会社の空気を吸って、社員さんと挨拶して...などの実体験が真の理解には必要不可欠だと思った。目の前で起こっていることに惑わされず、物事の本質を見据え続ける「眼力」に磨きをかけること、そして自分が苦しい時でも楽しんで乗り越えること、笑顔でいることの大切さを心に焼き付けることができました。  
(メーカーコース参加・文学部3年次生)

マスコミに関する情報がある程度知っていただけで、全てを知ったような気になっていたと気づきました。テレビ局に就職して何がしたいのか、どうしてテレビ局なのか...など、たくさんのことを考えていかなければいけないと思いました。そのために、学生時代に何かに一生懸命取り組んで、就職活動の時や卒業後に自信を持って「これをやった」と言える何かがある学生生活を送らなければいけないと思いました。  
(マスコミコース参加・商学部1年次生)

業務が省庁によって全く異なり、1つの省庁の中でも細かく組織に分かれているのに、「国益のため」という一つの共通の目的をもち、誇りをもって仕事をされているのがよくわかりました。自分が本当にやりたいことはおおまかなもので、その中で具体的に経験を積みながら自分が決めていく必要があります。さらに視野を広げていくのだと聞き、特に将来何がしたいのか具体的にわからなく焦っていた私にとって、少し安心することができたように思います。  
(霞ヶ関コース参加・法学部2年次生)

# 2008年度 大学予算について

財務部 経理課

近年ますます国際化・高度情報化が進む社会において、大学には教育研究の質の高度化および人材養成とともに多様化するニーズに応じた特色ある教育研究の推進が求められています。本学はこの間、教育改革、教育環境の整備充実、入試改革などに積極的に取り組んできましたが、今後も他の高等教育機関に先駆け、社会の期待に応えるために必要な構想・施策を実現していかなければなりません。

2008年度は、京田辺キャンパスを身体・生命・先端技術・情報を中心とする最高水準の先端的かつ複合的な教育研究拠点として、生命医科学部およびスポーツ健康科学部を開設し、大学改革のさらなる歩みを推し進めます。また、国際連携推進体制の充実、両校地で良質な教育サービスと学生サービスを提供するための環境整備、卒業生との連携強化などを図りつつ、2009年度の心理学部開設や文系学部1・2年次教育を今出川校地で展開するための準備を進めます。

2008年度予算は、帰属収入の安定的確保を図り、優先的課題への必要かつ効果的な措置を行いつつも、既存事業の見直しなど経費抑制に努めることにより、限られた財源を効率的に配分することを大原則に編成しています。

## 収入の部

学生生徒等納付金は、新設学部に係る収納があるものの、学部全体の入学定員が前年度どおりで増収を見込むことができず、前年度に対して3千万円減の272億5千万円を計上しています。これ以外の収入については、確実に収入が見込めるもののみを計上しているため(主な増減理由は表1に注記)、帰属収入合計は342億5千万円となり、前年度予算に対して7億9千万円の減収となっています。

第2号基本金取崩額は大規模な建設工事や研究装置等の取得資金に充当するもので、2007年度は医心館および磐上館の建設資金に24億円を充当しましたが、2008年度は研究装置の取得資金3千万円を計上しています。

当期固定資産除却額8億5千万円は、固定資産(機器備品)の償却期間完了によるものです。

特定支出準備金取崩額の内訳は、過年度に受入れた寄付金(オムロン基金プロジェクト宛)6千万円等です。

収入の部合計は352億1千万円となり、前年度予算に対して38億2千万円の減少となります。

## 支出の部

人件費は、教員充実計画および学部設置に伴う増員分の経費、定期昇給の必要額等を見込んでおり、前年度に対して9億7千万円増の185億9千万円を計上しています。

事業費は、表1では教育研究経費(減価償却額を除く)、管理経費(同左)、施設関係支出、設備関係支出および予備費に仕訳されていますが、全体では対前年度59億5千万円減の総額128億8千万円を計上しています(事業別予算額は表2参照)。経常的経費については前年度予算を基準として計上し、管理経費については一部の重点項目を除いて極力節減を図ります。建設事業としては、アーモスト館の整備事業のほか、図書館受電所の改修、神学館バリアフリー対策(今出川)、知真館2・3号館外壁改修、防災校地管理システムの更新、新学部棟周辺エリア整備(京田辺)などの事業を行います。

徴収不能引当金繰入額4千万円は、学費および学貸付金の回収不能額に対する引当金に繰り入れる額です。繰入金には、小学校での建設事業に対する繰入額3億円などを計上しています。

第2号基本金組入額の内訳は、教学施設整備資金14億円、情報基盤整備資金1億円であり、いずれも組入計画に基づくものです。

特定支出準備金繰入額の内訳は、中高統合事業に関わり、中学校移転に要する経費などです。

支出の部合計は387億2千万円となり、前年度予算に対して52億9千万円の減少となります。

## 収支差額の部

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は、35億1千万円の消費支出超過となります。消費支出準備金を取崩すことにより、最終的には1億6千万円の消費支出超過となります。

(本文中の金額については1千万円未満を四捨五入しています)

## 主な新規事業

(単位：千円)

教育研究条件の整備充実	
外国語能力テスト等の実施	16,060
新学部開設記念事業の実施	3,400
司法研究科の教育支援 (アカデミック・アドバイザー制度充実、判例法令DB整備他)	57,860
高大連携教育事業の実施	2,380
「日本事情科目」の運営	970
教育開発調査活動費制度の充実	5,000
国際教育プログラム調査活動の実施	5,000
留学生危機管理体制の充実	1,010
パソコン利用講習会の実施	18,970
ネットワーク利用資格認定試験の実施	7,790
標準的ソフトウェアの学校一括契約	27,400
教育ソフトウェアの新規導入・追加ライセンス購入	4,360
同志社図書館学講習所記録の複製	1,140
第3期南山城総合学術調査の実施	1,390
アメリカ研究所開設50周年事業の実施	7,940
同志社社史資料センター新規研究部門の立上げ	600
先端的教育研究拠点の基盤整備	12,000
研究センターおよび研究者会議の運営	6,080
環境保全・実験実習支援センターへの要員配置	130,000
同志社エコプロジェクトの運営	4,290
競争的補助金獲得の支援	35,000
国際戦略体制の強化	20,000

教育研究環境の整備	
図書室書庫の整備(社会学部、法学部、政策学部)	28,760
裁判員制度に対応した法廷教室の整備	8,220
教務事務センターの整備	5,500
正課体育施設設備の整備	5,250
図書館施設設備の整備	3,650
教室および貸出用マルチメディア機器の整備・更新	73,380
マルチメディアコンテンツ作成環境の整備	720
教室音響設備の更新	36,000
教務事務環境の整備(教務システム修正等)	33,360
Neesima Room 企画展の充実	1,220

学生生活支援の充実	
課外活動施設(京田辺別館)の整備	2,500
課外活動施設(体育施設)の整備	5,770
障がい学生支援用機器の整備	1,010

施設設備更新・省エネルギー化	
今出川校地施設設備の更新 (ハリス理化学館屋根改修、至誠館空調熱源更新、図書館屋上・トイレ改修、尋真館エレベータ改修)	119,920
京田辺校地施設のライフサイクル修繕 (館上館研究室他空調更新、香柏館エレベータ更新、実験排水処理施設改修、理工学部棟分電盤改修)	51,470
学研都市キャンパスの整備	41,350

企画広報活動・管理運営	
ホームページ英語サイトのリニューアル	56,910
漫画による創立者伝記の制作	28,880
ビジネス誌による広報企画	16,120
開設予定学部の広報	10,000
既存学部・大学院等の広報充実	31,150
その他企画広報事業の充実(東京フォーラムなど)	8,310
DOOネット(卒業生ネットワーク)の管理	7,770
専門職大学院の認証評価申請	7,570
入試広報および入試実施体制の充実	4,500
人事・給与業務の外部委託化	23,100
薬品管理の一元化	33,300
事務室内ネットワーク環境の改善	2,310
京田辺市との地域連携推進(スポーツ教室運営など)	1,440
法人管理文書の整備	7,540

建設事業(本年度支払予定額)	
文系学部今出川校地移転に向けた整備構想策定	64,400
アーモスト館の整備事業(今出川)	337,980
図書館受電所の改修(今出川)	47,180
神学館バリアフリー対策(今出川)	19,000
図書館グループ学習室の整備(今出川)	6,460
防災校地管理システムの更新(今出川)	16,480
防災校地管理システムの更新(京田辺)	140,000
知真館2・3号館外壁改修(京田辺)	145,230
新学部棟周辺エリア整備(京田辺)	22,900
快風館中央監視盤更新	34,130

## 2008年度収支予算書 (表1)

2008年4月1日から2009年3月31日まで

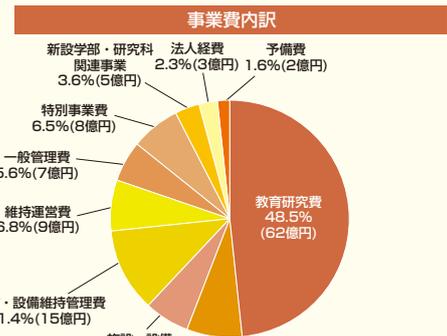
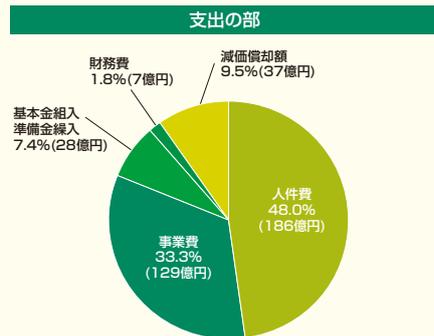
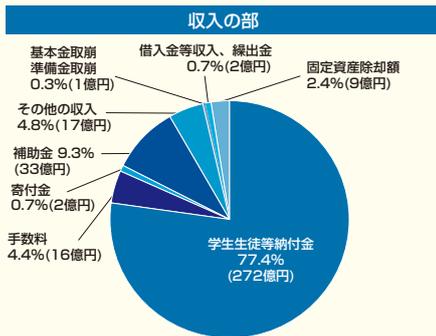
(単位：千円)

収入の部				
科目	予算	前年度予算	増減	主な内訳および増減理由
学生生徒等納付金	27,253,150	27,283,350	△ 30,200	学部学生総数の減少見込みに伴う減収
手数料	1,559,100	1,559,100	0	入学検定料等
寄付金	233,920	487,100	△ 253,180	寄付教育研究プロジェクト研究活動等寄付金等、取納が確実なもののみ計上
補助金	3,270,730	3,466,330	△ 195,600	経常費補助金、大学改革推進等補助金等、取納が確実なもののみ計上
資産運用収入	514,010	527,570	△ 13,560	
資産売却差額	0	35,620	△ 35,620	
事業収入	173,800	453,010	△ 279,210	企業からの研究受託に係る受託事業収入等、取納が確実なもののみ計上
雑収入	841,580	818,870	22,710	退職者の増加見込に基づく退職金財団交付金収入の増額
繰入金	249,440	286,660	△ 37,220	法人内諸学校からの資金調達の返済額
分担金	151,920	123,950	27,970	法人内諸学校からの法人業務に係る分担金
帰属収入合計	( 34,247,650 )	( 35,041,560 )	( △ 793,910 )	
第2号基本金取崩額	30,000	2,400,570	△ 2,370,570	前年度は仮心願および盤上館の建設資金への充当分
当期固定資産除却額	853,310	1,419,920	△ 566,610	1998年度取得固定資産の一括除却
借入金等収入	0	0	0	
当期末未払金	0	0	0	
基本金通年度組入額、未組入額計	( 883,310 )	( 3,820,490 )	( △ 2,937,180 )	
特定支出準備金取崩額	77,280	166,690	△ 89,410	
収入の部合計	[ 35,208,240 ]	[ 39,028,740 ]	[ △ 3,820,500 ]	

支出の部				
科目	予算	前年度予算	増減	主な内訳および増減理由
人件費	18,586,590	17,618,420	968,170	教員増員、定期昇給の必要額
教育研究経費	12,602,170	12,449,270	152,900	主な新規事業参照
消耗品費他	8,977,200	9,120,250	△ 143,050	
減価償却額	3,624,970	3,329,020	295,950	
管理経費	1,289,810	1,367,890	△ 78,080	主な新規事業参照
消耗品費他	1,225,880	1,297,930	△ 72,050	
減価償却額	63,930	69,960	△ 6,030	
借入金等利息	50,030	59,100	△ 9,070	借入金残高の減少
資産処分差額	520	46,700	△ 46,180	
徴収不能引当金繰入額	38,440	58,150	△ 19,710	
繰入金	301,770	1,011,300	△ 709,530	小学校での建設事業に対する繰入額
予備費	210,000	105,000	105,000	経理規程(経常勘定における帰属収入の7/1000以上を計上)に基づく
消費支出合計	( 33,079,330 )	( 32,715,830 )	( △ 363,500 )	
施設関係支出	800,780	5,413,590	△ 4,612,810	主な新規事業参照
設備関係支出	1,664,820	2,890,450	△ 1,225,630	主な新規事業参照
借入金等返済支出	295,850	305,250	△ 9,400	
前期末未払金	5,180	77,270	△ 72,090	
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0	
第3号基本金組入額	0	0	0	
第4号基本金組入額	139,000	37,300	101,700	学校法人会計基準に定める「恒常的に保持すべき資金の類」との差額を組入
基本金要組入額、当年度組入額計	( 4,405,630 )	( 10,223,860 )	( △ 5,818,230 )	
特定支出準備金繰入額	1,232,150	1,070,720	161,430	中高統合事業に関わり、中学校移転に要する経費等
支出の部合計	[ 38,717,110 ]	[ 44,010,410 ]	[ △ 5,293,300 ]	

収支差額の部			
科目	予算	前年度予算	増減
当年度消費収支差額	( △ 3,508,870 )	( △ 4,981,670 )	—
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	3,348,190	2,529,720	—
繰入前消費収支差額	( △ 160,680 )	( △ 2,451,950 )	—
前年度繰越消費収支差額	[ △ 23,806,410 ]	[ △ 21,354,460 ]	—
翌年度繰越消費収支差額	[ △ 23,967,090 ]	[ △ 23,806,410 ]	—

## 収支構成図



## 事業別予算書 (表2)

(単位：千円)

事業別予算総括表	
事業項目	予算
人件費	( 18,586,590 )
事業費	( 12,878,680 )
基本金・準備金	( 2,876,330 )
財務費	( 686,610 )
減価償却額	( 3,688,900 )
支出の部合計	[ 38,717,110 ]

事業費内訳	
事業項目	予算
教育研究費	( 6,240,790 )
研究所経費	1,734,800
実験実習費	114,470
教育研究援助費	692,240
情報処理教育研究費	1,031,190
情報情報整備充実費	880,500
国際交流関係費	381,160
入学試験経費	210,870
教学事務運営費	607,840
学生経費	587,720
奨学援助費	( 972,200 )
学生生活助育費	463,320
学寮費	401,760
施設・設備整備充実費	107,120
施設・設備等整備充実費	( 795,780 )
施設・設備維持管理費	795,780
施設・設備等維持管理費	( 1,475,310 )
維持運営費	1,475,310
通信費・光熱水費	( 872,550 )
一般管理費	872,550
一般管理費	( 726,590 )
教職員福利厚生費	726,590
特別事業費(建設事業等)	155,690
新設学部・研究科関連経費	( 833,760 )
法人経費	( 460,000 )
予備費	( 291,700 )
事業費小計	( 210,000 )
事業費小計	[ 12,878,680 ]

基本金・準備金内訳	
事業項目	予算
第2号基本金組入額	( 1,500,000 )
教学施設整備資金	1,400,000
情報基盤整備資金	100,000
第3号基本金組入額	( 0 )
第4号基本金組入額	( 139,000 )
翌年度基本金組入額繰延額	( 0 )
前期末未払金	( 5,180 )
特定支出準備金繰入額	( 1,232,150 )
基本金・準備金小計	[ 2,876,330 ]

財務費内訳	
事業項目	予算
借入金等返済支出	( 295,850 )
借入金等利息支出	( 50,030 )
資産処分差額	( 520 )
徴収不能引当金繰入額	( 38,440 )
繰入金	( 301,770 )
財務費小計	( 686,610 )

収入の部合計 352億円 (うち帰属収入 342億円)

支出の部合計 387億円 (うち消費支出 331億円)

事業費内訳計 129億円 (うち教育研究費 62億円)

# CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

## 日仏ダブルディグリープログラムで 工学研究科2名に博士号を授与

3月22日(土)の卒業式・学位授与式で、同志社大学から初のPh.D.のダブルディグリープログラム参加者である工学研究科知識工学専攻博士課程(後期課程)の大田健紘さんと機械工学専攻博士課程(後期課程)の桑原拓也さんに、同志社大学の博士号(工学)が授与された。また、それぞれの派遣校であるエコール・セントラル・リール、エコール・セントラル・パリからも博士号が授与される。

エコール・セントラルは、世界的に知られるフランスのグランゼコール(高等教育機関)で、パリ、リ

ヨン、リールなどフランス国内に5校ある。本学工学研究科は、1998年にエコール・セントラル・リールと学生交換の協定を結び、以来、同志社大学とエコール・セントラルの学生23人が、日本とフランスの研究室で共同研究を行い、同志社大学工学研究科の修士学位とエコール・セントラルの特別修士学位を同時取得している。



桑原拓也さん(左)と大田健紘さん(右)



また、2006年にはエコール・セントラルに属する5つのグランゼコールと協定を結び、双方の博士学位も同時取得できる制度を開始した。この協定により、大田さんは2006年9月から1年間、エコール・セントラル・リールに留学。音声認識のための

信号処理、雑音除去の研究を行った。「日本とフランスでは、問題に対するアプローチの方法に違いがあった。また、エコール・セントラル・リールでは非常に多くの国から

留学生を受け入れているので、さまざまな国についての理解を深めることができた。苦労もあつたが、新しいことに挑戦する良い機会になった。自分自身の視野を広げることができたと思う」と話した。一方、桑原さんは2006年9月から1年間、エコール・セントラル・パリに留学。磁性流体を用いた気液二相流の挙動解明の研究に取り組んだ。「今日の

フランスで他の分野について学べたことは有益だった。フランスと日本の両方の良いところを吸収して、自分の研究スタイルを確立できれば」と語った。

修了後、大田さんは諏訪東京理科大学の助教に就任し、教員生活をスタートさせている。桑原さんは再びフランスへ渡り、エコール・セントラル・パリの特別研究員として活躍中だ。

## 「Imagine Cup 2008 日本大会」 ソフトウェアデザイン部門で 工学研究科のチームが優勝!

マイクロソフトが開催している学生IT技術コンテスト「Imagine Cup 2008」日本大会のソフトウェアデザイン部門で、同志社大学のチーム「NISLab」が優勝した。

「Imagine Cup」は、マイクロソフトが全世界の学生を対象に2003年から開催している世界最大級のIT技術コンテストで、全部で9部門から構成されている。その中のソフトウェアデザイン部門は世界大会への国内予備選として開催されており、今年度の日本大会は4月27日(日)に名古屋で行われた。今回のテーマは「テクノロジーの活用による環境保護の実現」。予選を通過した3チームによるプレゼンテーションで審査が行われた。

優勝した本学のチームは、工学研究科情報工学専攻ネットワーク情報システム研究室(佐藤健哉准教授、小坂隆浩専任講



写真左から:清水誠さん、松下知明さん、中島申詞さん、加藤宏樹さん

都大学大学院に在籍する清水誠さんの4人。チームはメンターである小坂専任講師から助言を受け、準備を進めてきた。また今年度から、国内のITベンチャー企業がメンター企業として学生チームを支援しており、NISLabは株式会社knowboからサポートを受けている。

NISLabが発表したのは、グローバル消費電力システム「ECOGRID」だ。世界中の各家庭をネットワークで接続し、家電機器ごとに「環境基準」「ユーザー基準」という基準と優先順位を設定する。そして、相互に電力消費をモニタリングし、状況に応じて快適性を維持しながら電力線通信(PLC)を利用して家電機器を制御し、世界規模での消費電力の削減を図るものだ。

日本大会での優勝により、NISLabはメン

師)に所属する松下知明さん(工学研究科知識工学専攻2年次生)、加藤宏樹さん(同情報工学専攻1年次生)、中島申詞さん(同情報工学専攻1年次生)、そして、工学部情報システムデザイン学科卒業生で現在は京

## 井原康夫生命医科学部教授が紫綬褒章を受章



生命医科学部の井原康夫教授が紫綬褒章を受章した。紫綬褒章は、学術、芸術上の発明、改良、創作に関して顕著な功績をあげた人を対象に授与される国の褒章で、井原教授は神経病理学研究における業績が評価され、

今回の受章となった。井原教授は認知症の中で最も多いアルツハイマー病の研究に取り組んでおり、その神経病理学的特徴の一つである神経原線維変化の構成成分を微小管結合タンパク質と同一化した。また、他にユビキチンも同一化した。さらに、アルツハイマー病のもう一つの特徴である老人斑の構成成分であるアミロイドβタンパクには40残基のものと42残基のものがあるが、42残基のものから沈着することを見つけた。またこの20年来わが国のアルツハイマー病基礎研究の育成に尽力し、そのレベルを国際的レベルに引き上げた。

井原教授は受章について「わが国のアルツハイマー病基礎研究が盛んになったことと世間的にアルツハイマー病が注目されてきたという背景があり、アルツハイマー病研究者の代表として今回の受章に当たったでしょう」とコメントした。

## 経済学部生が「環境教育教材」を完成

今年3月、経済学部の郡駕ゼミ26期生(現4年次生)10人が企画した環境教育教材「Bidi」が完成した。このゲームは子供たちに楽しみながら環境問題を考えさせてもらうことを目的としており、世界の絶滅危惧種の動植物を描いたカードゲームである。京都の小学校を中心に環境問題の出前授業を行っている(株)鳥津製作所の「え〜こクラブ」にハード面を、京都精華大学の有志の学生たちにデザイン面を協力してもらうことで、それぞれの長所を生かした共同制作となった。

ゲームの名前「Bidi」は、生物多様性を意味する英単語「biodiversity」から名付けた。1人5枚のカードを手札に持ち、残りのカードを山札にしてゲームを進める。世界を7地域に分け、各地域に10種類の動植物を描き、全70種のカードには絶滅の恐れの高い動植物から10〜1までの点数が付く。参加プレイヤーの中の1人が同地域のカードを5枚揃えた時点でその手札の点数の合計を競う。動植物以外に、開発や密猟などの

人間活動を描いたカードもあり、それらには引いた時点で手札を捨てるなど活動に応じた役割をもたせ、人間活動が動植物に与える影響を示唆している。



今後は、(株)鳥津製作所の出前授業にも同行し、子供たちと一緒に遊びながら教材の普及をはかることを考えている。また英語版も作成して、世界規模での普及も視野に入れている。希望者には送料負担で配布する。詳細は、(株)鳥津製作所・え〜こクラブのホームページ([http://www.shinadzu.co.jp/aboutus/eco/eco\\_club/](http://www.shinadzu.co.jp/aboutus/eco/eco_club/))に掲載されている。お問い合わせは、(株)鳥津製作所 地球環境管理室(TEL:075-823)1133まで。(経済学部郡駕ゼミ4年次生 杉本圭)

## 「竹岡塾」主宰 竹岡広信氏 新入学生歓迎特別講演会を開催

京田辺校地学生支援課が主催する今年度の新入学生歓迎特別講演会は、英語教師の竹岡広信さんを迎え、4月15日(火)同校地ハローホールで開催された。1961年に京都府亀岡市で生まれた竹岡さんは京都大学工学部に進学し、卒業後に文学部に編入して英語教授法を身につけた。

現在は地元の亀岡市で大学受験英語専門塾「竹岡塾」を主宰する傍ら、予備校講師として各地を飛び回る多忙な日々を送っている。体当たりの熱血指導には定評があり、漫画「ドラゴン桜」に登場するカリスマ英語教師のモデルとされている。「大学での勉強法―自分の殻を破るために―」と題した講演では、英語とどう向き合い、大学生活をどう送るかにについて学生に熱く語りかけた。

英語教育のプロとして取り上げられたNHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」(2006年3月14日放送)が一部紹介さ



れた後に登壇した竹岡さんは、配布した英検1級演習プリントを手に「4年後にこれを簡単と思えるかどうかすべて」と講演を始めた。そのうえで「もし28年前に戻れたら和英辞典を手放さず言葉を日々覚えていく。1日たった5語でも4年間で約7千語」「精読も大切だがむしろ多読で力をつけよう」と継続することの重要性を強調した。

この後、英語に限らず外国語を覚えるためには語源を知ることが不可欠になるとして、「語源で覚える」独自の英語習得法を

解説。また、英語学習の参考となる推薦図書を紹介しながら、「面白いと思える本をたくさん買って読みましょう」と論じた。

話題は英語学習法だけにとどまらない。日頃から「情のある人間になれ」「挨拶のできる人間になれ」「掃除のできる人間になれ」と説く竹岡さんは、「みんなすごい可能性を秘めている。きっかけさえつかめば化ける。努力次第でいつか花開く」と教える子たちの事例を取り上げながら激励した。そして「歌舞伎、狂言、美術など、何でもいから文化・教養を身につけること」「ゲーム、パチンコ、マージャン…不毛な時間をなくせ」などと生活全般にわたる細やかなアドバイスもおくった。

上級生も含め参加した学生たちは愛情あふれるカリスマ先生の熱心な話に耳を傾け、講演後の質疑応答も盛んに行われた。学生からは「今日の講演はためになりました。さつそく本屋さんに行きます。それから勉強法にも挑戦します」などの声が上がった。

## 京田辺校地食堂

### リニューアルオープン!

京田辺校地の食堂購買棟1階の改修工事が終了し、4月8日(火)にリニューアルオープンした。食堂購買棟1階は、「カフェテリアFUJYA」(大食堂・「カーリーハウス」(カレー専門店)・「めん風」(ラーメン専門



「Davis Café -for Athletes-」の店内

店)・「いも文」(麺・丼専門店)・「ふじかつ」(どんかつ専門店)と店名も刷新され、メニューも全面的にリニューアルされた。また「カフェテリアFUJYA」内にはフードコーナー「Yショップ」が設けられ、軽食にも対応できるようになった。

体育地区の食堂は「Davis Café for Athletes」として新しく生まれ変わった。オーダー調理が実現され、「出来立て」「あつあつ」の高品質メニューが提供される他、テーピングなどスポーツに欠かせない商品を販売する「ミニコンビニ」(D+plus store)も店舗内にお目見えした。朝夕は体育系クラブへのスポーツ食の提供(予約食)も行う。

京田辺校地では、2006年10月に「アマーク・ド・パラディラット」が新規オープン、2007年9月に「生協食堂」が「京田辺Cafeteria」としてリニューアルオープンした。今回のリニューアルにより、この3年間で20年余を経た京田辺校地福利厚生施設は大きく改善された。

(京田辺校地学生支援課)

## 医心館竣工式

3月28日(金)、生命医科学部の教育研究棟「医心館」の竣工式を挙行了。大学関係者や工事関係者など約150人が参列し、校舎の完成を祝った。大谷實総長は式辞の中で、「医心館はサイエンス分野に特化した教育、研究の拠点であり、良心教育、人間教育という同志社ならではの人材育成が期待される」と述べた。また、八田英二学長は「医心館は、生命医科学部における最先端技術の施設、設備を有する教育研究の拠点であり、スポーツ健康科学部、また来年度開設する心理学部との相乗効果も大いに期待したい」と挨拶した。

医心館はR2用地に建設した地上6階建ての建物。前面のエントランス部分に緩やかな階段のアプローチと広場を設けることで、威圧感のない開放的で明るい空間となった。建物は、大きく北棟、南棟、特殊実験棟の3つの棟に分かれている。北棟は医工学科と医情報学科の実験研究棟。南棟は生命科学システム学科の実験研究棟。そして特殊実験棟には、RI実験施設と動物実験・飼育の施設を配置している。

竣工式の終了後、参列者は建物の中を見学し、高度な管理システムやセキュリティシステム、実験設備などについて工事担当者の説明に熱心に耳を傾けた。

(京田辺校地施設課)

## 磐上館竣工式

3月12日(水)春光の中、京田辺校地磐上館で増改築工事の竣工式を挙行了。磐上館は、これまで体育担当教員の研究室や控え室、体育係の事務室として利用されてきたが、今回の増改築により、スポーツ健康科学部の教育拠点として設備が整った。

延床面積は、増築部分の約2,675㎡を合わせると約4,200㎡となった。増築した部分には、講師控え室、会議室、共同研究室などの他、トレーニングマシン等も備えた多目的実習室や、コンピュータでのデータ解析なども可能な実験室が備わった。さらにPCコーナーや学生ラウンジなど、学生が快適な学生生活を送るための空間も完備した。竣工式では、大谷賞総長が「創設者新島襄が掲げた知育、徳育、体育の三位一体の教育を実現するべく、スポーツ健康科学に係る教育・研究のための高度で最新の環境が整った」とし、工事担当者に対し感謝の意を表した。また八田英二学長が「この建物が日本におけるスポーツ健康科学研究の優れた拠点となることを期待している」と挨拶した。

## 2009年度に心理学部を開設

2009年4月心理学部・心理学研究科を開設します(届出手続中)。詳しくはHPをご覧ください。http://www.doshisha.ac.jp/information/activity/2009shinri.php  
心理学部設置準備室 TEL 075(251)3364

## 同志社大学の募金事業

本学では、建学の精神に基づく教育研究事業を将来にわたって維持発展させていくために、かねてからご父母、教職員はもとより広く社会全般に向けて募金のご協力をお願いしてまいりました。

## 2007年度 募金事業実績報告書(2007年4月~2008年3月入金分)

募金事業	寄付件数および金額		使 途
教育研究施設等整備資金募金	在学生父母	432件 34,728,560円	今出川キャンパスにて改修を進めてきたクラーク記念館を整備するなど、施設整備資金として活用 ■建設事業の詳細は、学校法人同志社発行「事業報告書2007」(同志社大学2007年度の事業実績)に記載しています。
	卒業生、一般、法人	63件 116,309,000円	
	計	495件 151,037,560円	
奨学金資金募金	卒業生、一般、法人	75件 8,773,000円	2007年度に実施した特定寄付奨学金給付の資金として活用 給付件数35件、給付総額10,500千円 残額は2008年度と同奨学金資金として繰越
	教職員	58件 4,746,000円	
	計	133件 13,519,000円	
同志社ローム記念館プロジェクト・サポート募金	卒業生、一般、法人	9件 7,945,000円	2007年度に実施した同志社ローム記念館プロジェクト(教職員、学生、生徒と産・官・学・地域の連携によるプロジェクト)の支援資金として活用
	教職員	10件 136,500円	
	計	19件 8,081,500円	

昨年度は、教育研究活動を展開する施設の整備を目的とした「教育研究施設等整備基金」、経済的困窮に苦しむ学生を支える特定寄付奨学金制度の資金に充てる「奨学金資金募金」、次代を拓く情報教育プロジェクトを支援する「同志社ローム記念館プロジェクト・サポート募金」など、数々の募金事業を行いました。これに対してご父母、卒業生、法人、教職員など多方面からご協力をいただき、集まった資金を活用して所期の事業を滞りなく実施いたします。これも皆様方の深いご理解の賜物と、厚く御礼申しあげます。2007年度の募金事業の実績についてご報告いたします。

なお、奨学金資金募金では3月末までに、卒業生および教職員の方々から左記のとおりご協力をいただきました。  
2007年度協力者ご芳名  
(2008年2月~3月申込分順不同敬称略)

【卒業生・ご父母、一般】  
300,000円 (株)バン・ネットシステム  
【教職員】  
60,000円 石田修一  
ご芳名のみ  
協田里子

※教育研究施設等整備資金募金、プロジェクト・サポート募金のご芳名については、別途芳名録を作成しご寄付いただいた方々にお送りしています。

これらの募金事業については、本年度以降も社会各界に対して継続的に呼びかけを行っておりますので、引き続き温かいご支援をお願い申し上げます。

(財務部資金課)

## 本学教職員の執筆図書紹介

総合情報センター調べ(価格は税別)

### 国際刑事裁判所

新井亮 他 執筆 東信堂 4,200円

### アメリカカナダ

村田晃嗣 他 執筆 ミネルヴァ書房 2,800円

### 古筆と和歌

榎本朝子 他 執筆 笠間書院 1,750円

吉田富夫先生退休記念中国学論集  
橋原俊代 他 執筆 汲古書院 1,500円

ハワイ日系2世とキリスト教移民教育  
吉田亮 著 学術出版会 5,600円

### 会社法と商事法務

森田章 他 執筆 商事法務 5,500円

### 壇輪の風景

尾上和弘 他 執筆 六一書房 3,300円

大学生のためのキャリア開発入門  
中村聡子、谷本啓 他 執筆 中央経済社 2,100円

### 企業法入門

藤田節 他 執筆 悠々社 2,000円

### 公務改革の突破口

山谷澤志 他 執筆 東洋経済新報社 2,800円

### 日米関係史

村田晃嗣 他 執筆 有斐閣 2,400円

ノイズとダイアログの共同体  
久野聖子 他 執筆 筑波大学出版会 1,150円

戦間期日本の社会集団とネットワーク  
河崎吉紀 他 執筆 N-TT出版株式会社 4,700円

### 日本文化の鉅録

岸文和 他 執筆 風媒社 3,800円

企業変革の人材マネジメント  
大田肇 他 執筆 ナカニヤ出版 3,500円

### 日本の会社法

森田章、川口恭弘 他 執筆 商事法務 3,300円

### はじめて学ぶ政治学

長谷川一年 他 執筆 ミネルヴァ書房 2,800円

### 核軍縮不拡散の法と政治

村山裕二 他 執筆 信山社 1,200円

### 社会保障法入門

西村健一郎 著 有斐閣 1,900円

### 確立入門

片山徹 著 勉誠出版 2,000円

### 法律学入門

前田通明 他 執筆 有斐閣 2,100円

### まなびの入門監査論

百谷野正博 他 執筆 中央経済社 2,400円

スコットランドの歴史と文化  
金澤和美 著 明石書店 9,500円

### 教育文化への挑戦

沖田行司、越水雄一、吉田亮、井上智義、マリナー、スチブン、宇野、園生、山田、礼子、中村、百谷、宇治郷、野田、附俊一 執筆 明石書店 2,800円

# 「世界に羽ばたけ」

2008年4月1日。満開の桜に見守られ、学生・教職員総勢、約180人でスポーツ健康科学部が始動しました。これから永年と続く歴史の起点となるこの瞬間に立ち会えることに感動を覚えるとともに、これから始まる生活に気持ち

を新たにしたのは、そこにいた誰もが同様であったと思います。既存の同志社大学の充実した設備に加わった真新しい学び舎。自らが学生だった頃と比較にならないような素晴らしい環境を与えていただいたことに、学生とともに感謝しています。

そして、初々しい新入生だけの授業が始まりました。

「質問はありませんか？」

私はいつも、何かにつけて学生に問いかけます。「……」。返ってくるべき返答がないのが現状です。これが詰め込みと揶揄される教育を受け、受験戦争を勝ち抜いてきた結果なのかと考えさせられず、後ろの席に座りたがるという現在の教育現場の風潮に、本来の「興味」や「意

欲」といった心の底から湧き上がる自然な学びの姿が隠されてしまっているようにすら思えてなりません。正直なところ、こういった学生の姿は私自身の学生の頃の姿と重なってしまうのですが、私の意識に変化が芽生えたのは次のような経験からでした。

私は博士号取得後、モントルリオにあるMcGill大学に研究員として3年間在籍していました。日常会話もままならない状態で飛び込んだ海外生活ではありましたが、そこではカナダ独特の多国籍な仲間が迎え入れてくれました。特に強く印象に残っているのが、海外の学生のプレゼンテーション能力の高さです。原稿に目を落としながらの発表はタブー

とされていて、大学院生の発表会ともなると、さながら国際学会のように感じられました。日本人は知識において国際的に見ても高いレベルにあると言えるにもかかわらず、一步海外に出てみるとその能力を社会の中で生かしきれていないことに気付かされます。それは、自ら

情報を発信する態度と力が培われていないことに起因するのではないのでしょうか。大学の教育理念の柱として国際主義が掲げられていますが、これは単に外国語を話せるだけでなく、異なる価値観を受け入れ、そこから「何か」を見出せる人を育むこととされています。日本から世界を牽引する人材を輩出するには、自己表現能力の育成は大変重要な課題であるように思います。これにわが国の文化によって育まれる他人の声に耳を傾ける姿勢が加われば、間違いなく活躍の場は増えることでしょう。

私はこの度、著名な先生が多数在籍されている同志社大学に、同志として加わる機会を与えられました。そこで若輩の教員である私に何ができるのかを改めて考えてみました。それは、学生に近い立場から考え、そして何より学生の声に耳を傾けること、たとえ自分自身で問題解決の手引きができなくても、困っている学生がいいたらその傍らに寄り添うことだと考えました。経験で劣る教師としての力量は時間と努力、そして態度で補

えるはずですが、教員として人間として、学生とともに成長していきたいと思っています。だから尋ねます。

「質問はありませんか?……」、「講義は楽しいですか?……」

Naoyuki Ebine

海老根 直之

スポーツ健康科学部 専任講師

福島県出身。筑波大学体育専門学群卒業。同大学大学院修士課程体育研究科および博士課程体育科学研究科修了。博士(学術)(筑波大学)を取得の後、McGill University (Montreal, Canada), School of Dietetics and Human Nutritionに博士研究員として3年間在籍。帰国後、大分大学医学部 人間環境・社会医学講座 予防医学分野 助手、助教を経て、2008年4月からスポーツ健康科学部専任講師に就任。研究の専門分野は、身体活動量、エネルギー消費量の評価。



外務省儀典長

# 楠本祐一さんに聞く

インタビュー  
湯浅孝康さん  
〔政策学部4年次生〕



**湯浅** ●儀典長という役職は外国の賓客を接待するお仕事だと伺っているのですが、具体的にはどのようなことをされているのですか。

**楠本** ●大きく分けますと4つの役割があります。1つ目は外国からのお客様の接待ですが、外国から来られる方には国賓と公賓、さらには公式実務訪問、実務訪問などいくつかのカテゴリーがあります。毎年どんなお客様をお呼びするかという計画を作り、それに従って省内にある地域局、例えばアメリカ局やアジア局などと一緒にお迎える準備を進めていく、まずはそのような外国の賓客の受け入れや接遇が大きな仕事になります。2つ目は、皇室の国際親善活動をお助けすることです。天皇皇后両陛下をはじめ、皇太子殿下、秋篠宮殿下など皇族の方々が外国に行かれる際には、私どもと宮内庁、地域局が受け入れ国と相談をしながら実施しています。それから、外国の大統領や首相などが来られると、天皇陛下にお会いしたい」という話になりますので、そのような場合には私どもが宮内庁との窓口になります。3つ目の役割としては、日本に滞在されている145カ国の大使の方々とのお付き合いです。普段から良好な人間関係を築き、連絡調整を密に取らなければなりませんから、食事を共にしながらさまざまな話をすることもあります。日本では12月23日の天皇誕生日が国際日になっていますが、各国にも国際日がありますので、そのレセプションに招かれたりすることもありますね。そういう



**楠本 祐一さん**  
〔1971年法学部法律学科卒業〕

1947年生まれ、京都市出身。71年外務省入省、72年在英国大使館外交官補、74年在ソ連大使館二等書記官。在クウェイト大使館一等書記官、在ジュネーブ日本政府代表部参事官、在ロシア大使館公使、OECD日本政府代表部公使、在バンクーバー総領事、在ハバロフスク総領事、在ウズベキスタン特命全権大使などを歴任し、2007年8月から現職。

大使館、大使とのお付き合いも大切な仕事です。最後の4つ目の役割は、外国人の方に勲章を授与することです。外国にある日本の公館に勲章を差し上げるのにふさわしい人物を推薦してもらい、内閣府と相談して決めています。

**湯浅** ●外国の方は私たち日本人と文化や慣習が違うと思うのですが、そういう方々とお付き合いするうえで重要なことは何でしょうか。

**楠本** ●おっしゃる通り、世界中の国それぞれが自国の文化を持ち、そこに暮らす人びとはそれぞれに異なる考え方や価値観を持っていきます。そこで大切なのは、多様性を認めることです。そして、それぞれの国の文化に対して敬意を払うこと。どの国が上とか下ということはなく、文化ということのは相対的なものです。あらゆる国に対して、違いを認識しながら、敬意を持って接



していかねばなりません。

**湯浅** ● そうした文化の違いで戸惑われた経験はありませんでしたか。

**楠本** ● まだ若い頃でしたが、クウェイトの大使館に一等書記官として勤務したことがあります。私はそれまでアラブのこともイスラームのこともあまりよく知りま

せんでしたから、やはり文化の違いを感じ

ましたね。ご存じのとおり、イスラームの社会ではお酒は飲むことができませんし、豚肉を食べることも禁じられています。さらに断食の月があり、そのときは外国人も表立って飲食をすることはできません。初めは戸惑いましたが、その地の文化です

から、そういうことを前提としてうまくお付き合いをしていかなくてはいけない。それに実際に話をしてみると、慣習の違いはあっても、個々の人びとが親しくなれば人間同士の信頼が生まれます。同じ人間同士ですから共通する部分もたくさんあります。違いを意識しつつ、うまく信頼関係

を築くことがきわめて大事なことです。いろいろな国の大使やお客様とお話して、日々学んでいくことも面白いですね。

**湯浅** ● そういったところが仕事のやりがいにつながっていくのでしょうか。

**楠本** ● そうですね。東京にいなから145のいろいろな国の人と出会えるわけですし、大統領や首相といった各国のトップの方々と接することができます。また両陛下をはじめ皇室の方々とお話しする機会もあります。やはりそういった方々は素晴らしい人格、資質をお持ちになっていると感じますね。このような経験は外交官冥利に尽きると言えます。ただ、各国の要人とお会いする際には、私を通して日本というものを認識されるわけですから、重責を感じますし今でも緊張します。さらに皆さんに満足して帰っていただくかなければなりませんから、きめ細かい対応を心がけるように気を配っています。

**湯浅** ● いろいろな国がありますからお付き合いの仕方も変わってくると思います。が、おもてなしをするという意味で特に心がけておられることは何でしょうか。

**楠本** ● やはり日本人ですから、日本のおもてなしの心でお迎えをするということ

です。日本のおもてなしの心の原点は、和の精神だと思っています。聖徳太子が十七条憲法で「和を以て尊しと成す」としたように、争いを避け、できるだけ相手の言うことを聞きながら、お互いの接点を探り、調和を

図っていく。そういう精神は日本が持つ大きな価値の一つです。そして、その背後にあるのは思いやりの心であり、誠実を基本にした相互の信頼です。私はこれまでの外交官人生でそれを第一に考えてやってきましたし、これからもそうしていきたいと思っています。ただ一方、外交の世界では、国益を擁護することがきわめて重要ですから、

そのためには主張もしなければなりません。日本の意見や立場というものを、はっきりと相手に伝えなければならぬのです。日本人同士のように以心伝心で言葉に出さなくても分かり合えるということはありませんから、こちらの意志を明確に伝える必要があります。しかし、私はそんな場合でも、日本ならではの和の精神を生かしていくことができると思うのです。相手のことを考え、こちらの意見もはっきりと主張しながら、着地点を見いだし、問題点を解決していく。それこそ先人から引き継いできた日本人の知恵だと思っています。

**湯浅** ● ところで、楠本さんはどうして外交官になろうと思ったのですか。

**楠本** ● 私が外交官になりたいと思ったのは高校生の頃でした。私は京都生まれの京都市で、中学から同志社だったのですが、幼い頃から外国へ行きたいという夢を持っていました。今のように簡単に外国に

行ける時代ではありませんでしたから、その夢を叶えるには外務省に入ることだと考えたのです。また、影響を受けたという意味では、新島襄先生の存在も大きいですね。中学生の時、新島先生が幕末の時代に国禁を犯して単身アメリカに渡ったというのを教わり、外国へ行きたいという憧れが強かった私は衝撃を受けましたね。そして、高校3年の時に外交官になろうと決心をして、大学では法学部に入り、外務省に入るための勉強を少しずつ始めました。

**湯浅**●楠本さんにとって、同志社での経験が役立つことはありますか。

**楠本**●もちろんたくさんありますよ。まず、京都の大学で学んだという点は、外交官として非常にプラスになったと思います。昨秋、ベトナムの国賓を京都迎賓館にお迎えしたのですが、京都御苑の見事な紅葉に感激されていましたね。私も学生の頃、その京都御苑でよく友人と講義について議論したものです。日本の文化や歴史を身近に感じることができると環境にありました。また、中学生の頃から礼拝の時間がありましたから、目に見えないものの存在を近くに感じながらさまざまなことを考える機会を持ったような気がします。そして、同志社にはすごく自由な雰囲気があると思いますね。その点は、私が在籍していた頃から変わっていないのではないのでしょうか。学生も大らかで自由闊達な風気がありました。学生時代は自由にいろいろなことを考えられる時期ですから、いつも好奇心を持ってフレッシュな感覚で物事を見る目

を養うことができたと思います。外交官の道へつながるといふ意味で役立つこととたとえば、英語力を身につけるためにESSに入部しました。そこで経験したのは、それまでの読む英語ではなく、実際に使うための英語です。いわば語学のセンスというものをそこで磨くことができたと思います。入省後に、ロシア語やフランス語も身につけましたが、英語を身につけておくとの言語にも取り組みやすいですよ。

**湯浅**●楠本さんはどの地域、言語がご専門なのですか。

**楠本**●私はロシア語です。入省する際に、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、中国語、アラビア語から選択するのですが、私はあまり馴染みのない国に行ってみたかったこともあって、ロシア語を選びました。入省後、語学のトレーニングを受け、1年間本省勤務をした後、在外語学研修がありました。はじめはロンドンへ行って、英語を通じてロシア語を学んだのです。その後モスクワ大学でロシア語を勉強し、1974年から2年間、モスクワの日本大使館で二等書記官として勤務しました。さらに1992年からロシアの日本大使館に再度赴任したのですが、当時はソ連からロシアへと変わった激動の時代です。私の外交官生活の中でも最も深く印象に残っている出来事の一つですね。

言葉にすごく誇りを持っていると感じますね。それを見て痛切に思うのは、私たちも日本人であることの自覚を持ち、日本語の美しさを大事にしなければならぬということだと思います。国際人であるためには、まず日本人でなければなりません。私たちが生まれ育った日本という国の歴史、他の国にはない日本だけが守り維持してきた歴史の重みを理解することが、何より大切なことだと思います。そして、そのうえで世界にはさまざまな文化、歴史を持った国があることを認識し、その多様性を受け入れる広い心を持つてほしい。今、諸外国の日本に対する関心度は、皆さんが想像するよりずっと高いのです。他の国々と付き合っていくために重要なのは、すべての国を対等のパートナーとして認識することです。それこそが国際人として身につけるべきセンスだと私は思います。

**湯浅**●最後に、同志社大学の学生に何かアドバイスをいただけますか。

**楠本**●国際社会では、自分の意見を持ち、それをきちんと言葉で伝えることが重要です。共通語である英語の能力を高めることは言うまでもありませんが、肝心なのはその中身です。大学時代に貪欲に知識を吸収し、自分の考えを磨いておくことが大切です。そして、せつかく千年の古都である京都で学んでいるのですから、日本のこともしっかりと勉強してください。

**湯浅**●本日は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございます。

**楠本**●外国の方たちは、自分の国の歴史や

INTERVIEWER

**湯浅 孝康**さん  
政策学部 4年次生

政策学部では山谷清志教授のゼミで、行政学、政策評価について学ぶ。卒業論文では、行政改革について取り組むつもりだ。卒業後は大学院に進学し、将来は公務員として国あるいは地方自治体の行政を担うのが目標。



日本人として日本のことを学ぶ大切さを知りました

事前に調べていく中で基本的な知識を得ることはできたのですが、今回直接お話を伺って、儀典長という役職の重要性を改めて認識しました。お話の中で最も印象的だったのは、日本人としてもっと日本のことを知らなければならないと言われたことです。外国の人たちと良いお付き合いをするには、まず日本人としての足元を見直すことが大切なのだとわかりました。今は大学院への進学を目指して勉強中ですが、最終的には公務員になりたいと考えているので、今回のインタビューをきっかけに外務省も将来の選択肢の一つとして考えたいと思います。

このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

# 自分自身に投資をすることが 結果につながる。 だから、常に自分を磨いていたい。



私は実家が電気屋で、ゆくゆくは家業を継ぐつもりで商学部を選びました。ただ、あまりにも話し下手で、それでは商売をやるにも差し支えがあると思ひ、大学時代にボランティアでFM宇治のレポーターをしていました。3年次にはFM京都のDJコンテストで優勝し、それがきっかけで「話す」ということの魅力に惹かれていきました。卒業時また家業を継ぐつもりでいたのですが、力試しに大阪の放送局を受験したところ、最終面接まで残ることができ、これはもしかしたら本当にアナウンサーになれるのではないかと思うようになりました。そこで諦めずに地方局をまわり、岡山と香川がエリアの瀬戸

内海放送に入社しました。

瀬戸内海放送では、甲子園で行われる高校野球の大会で、香川代表の尽誠学園の試合を実況する機会がありました。そのとき、初めてスポーツ実況の楽しさを実感したのです。選手と同じように自分も戦っているような気持ちになり、アドレナリンが吹き出すような感覚を覚えました。そして、将来的にはスポーツ実況のアナウンサーとして道を究めたいと考えていたところ、静岡放送がスポーツ実況のできるアナウンサーを募集していることを知って応募し、静岡放送に入社したのが5年前のことです。

静岡放送に魅力を感じた理由は、日本で数少ないラジオでのサッカー中継も行っている局だからです。野球の実況ができるアナウンサーは全国に

たくさんいますが、ラジオでサッカーの実況ができるアナウンサーはまだまだ少ないのが現状です。Jリーグだけでなく小学生から高校生までの試合の実況をしていると、自分の実況した子どもたちがどんどん成長して、さらに上のレベルの大会で出会うことがあります。なかには「牧野さんの実況のテープを宝物にしています」という子どもがいたりするのです。そういう話を聞くと本当にやりがいを感じますね。

ラジオのサッカー実況の難しい点は、どちらが攻めているどのポジションにボールがあるのかを瞬時に的確に伝えることです。限られた時間でどんど

んボールが動いていくわけですから、その中でいかに状況に合った「短くても伝わる言葉」を選ぶかが問われます。そのためサッカーの試合をたくさん観たり、先輩アナウンサーの過去の実況テープを聞いて真似したりもしますが、自分だけの表現が生まれるのは全く別の体験を思い起こした瞬間であったりもします。ですから、これさえやればよいということではなく、お笑いを観たり本を読んだり何をしても勉強になりますし、自分自身に投資をすることが、日々自分を磨いていくことが良い結果につながっていくのだと思います。

だから、大学時代にはその時にしかできないことをたくさん経験しておいた方がいい。大学時代はいろいろなことをスポンジみたいに吸収できる時期です。そして、社会人になってからそれをアウトプットすればいいのではないのでしょうか。アナウンサーを目指す後輩にはそうアドバイスを送りたいです。

## P R O F I L E



**牧野 克彦さん**  
【1999年商学部卒業】

静岡放送株式会社  
報道制作局 情報センター  
アナウンサー

大学時代は学生放送局に所属。他にも、トライアスロンなどのスポーツに熱中した。特に冬休みには、ベンションに泊り込んでアルバイトをしながらスキーに励んだという。現在は、スポーツ実況などの仕事に併せて、情報番組のレポーターや深夜放送のDJも務める。縁もゆかりもない静岡へ単身やってきて、「同志社大学の卒業生から声をかけてもらうこともあります。応援をもらったときは、同志社の絆の強さが身にしみて嬉しかったですね」と爽やかに笑う。

# 私と「仕事」

## 仕事を楽しくするのは、自分。 自らアクションを起こすことが大切。



トまで一貫して学ぶことができたのです。その後、2005年6月から1年間、社内の留学制度を利用してアメリカへ渡りました。スタンフォード大学に知的財産権法について専門に学ぶコースがあり、主に特許や著作権などの分野を勉強したのですが、そこでは日本や諸外国の弁護士との交流もあり、入社からやってきたことを振り返る良い機会になりました。大学院時代に、ダニエル・ローゼン先生の授業でティーン・グ・アシスタントをしていたのですが、その時先生から英米法について教わり、法律英語に親しんでいたことはとても役立ちましたね。

### P R O F I L E



**須藤 谷寿子さん**  
【2001年法学研究科公法専攻  
博士課程(前期課程)修了】

松下電器産業株式会社  
リーガル コンサル&ソリューションセンター  
東日本法務グループ 法務第一チーム 主事

先輩の勧めもあって、法学部から飛び級で大学院法学研究科に進んだ。学部、大学院を通しての指導教授との出会いは、たまたま硬式野球部の応援に行った際、スタンドで教授と一緒に過ごしたことがきっかけだったと言う。会社の上司に恵まれたことも含め、「偶然の出会いの積み重ねですね」と笑う。最近結婚したばかりだが「当社は仕事と家庭生活を両立できる仕組みが整っているので、働きながら主婦業もしっかりやっていた」と、新しいチャレンジに目を輝かせる。

大学院法学研究科では、故安枝英紳先生のゼミで主に労働法について勉強していました。そんな私が企業法務に興味を持ったのは、ある企業が主催したセミナーに学生としてお手伝いした際に、人事、法務といった分野の仕事や企業活動の仕組みを知ることができかけです。松下電器産業に入社した際には、最初から法務部門への配属を希望しました。研修期間を経て、半導体を専門に扱う社内分社で法務を担当することになり、そこで過ごした4年間で徹底的に基礎をたたきこめました。半導体事業に関する契約の交渉や審査、そうして締結された契約に基づく事業推進のリスクマネジメント

帰国後、2006年秋から現在の部署で新たなスタートを切りました。社内の契約業務を担当する傍ら、事業現場の契約対応力の強化を推進する部門なのですが、その中で私が担当しているのは携帯電話とカーエレクトロニクスの事業部門です。モノづくりにはさまざまな人が関わってきます。開発から製造までの過程では、他の企業から部品や技術を導入するためのライセンス契約などさまざまな契約業務がありますが、相手方の会社との間で権利と義務を明確にし、両者のバランスをとり、かつ、当社の事業活動が不当に制限されないよう、留意しながら契約条件を審査

交渉する。そして合意内容が後々に問題を残さないようにきちんと審査し、合意内容が正確に反映されているかを開発や製造の現場と一緒に確認していくのです。難しい交渉を乗り越え、プロジェクトが動き出した時にはやりがいを感じますね。そして、自分が関わった仕事の結果が製品となって社会に出て、実際に自分の目で見られることがメーカーの良さだと思います。そうして生まれた製品のファンだからこそ、私はこの会社にいるのかもしれない。仕事はどんなことでも楽しいと思えば楽しくなるし、楽しくするのは自分にしかならないことです。自分からアクションを起こさないと何も返ってきません。とくに学生時代は、少しくらい躓いてもいいから、常にやってみないとわからないという気持ちを持って、さまざまなことにチャレンジすることが大切だと思います。

# C E M E N T

6月25日(水)陶芸サークル土夢「作品展」 時間未定  
 6月27日(金)アンシェヌマン「ダンスステージ」 時間未定  
 6月27日(金)とんがりぼうし「2回生コンサートデモ演奏」 12:15～  
 6月28日(土)とんがりぼうし「2回生コンサート」 時間未定

## ●今出川キャンパス

6月14日(土)同志社ミステリ研究会「皆川博子講演会」  
 12:30開始(12:00開場) 無料

## ●寒梅館ハーディーホール

7月13日(日)E.S.S.「第35回新島杯争奪全日本学生英語弁論大会」  
 12:30(12:00) 無料

## ●寒梅館クローバーホール

6月23日(月)F.B.I.「新入上映会」 12:30～19:00 無料  
 7月13日(日)ギタークラブ「新歓コンサート」 15:00(予定) 無料

## ●寒梅館地下ギャラリー

6月2日(月)～7日(土)写真同好会・neuf「コラボ企画 Secret Idol」  
 10:00～18:00 無料

## ●新町別館小ホール

6月20～22日(金～日)同志社小劇場「六月公演(演目未定)」  
 前売り:600円/当日:800円  
 20日18:00～/21日14:00～18:00～/22日14:00～(開場は開演の30分前)

## ●栄光館

7月5日(土)学生混声合唱団CCD「フレッシュコンサート」 17:00(16:30) 無料

## ●学外

6月7日(土)同志社交響楽団「2008年度 京都公演」 19:00(18:30) 1000円  
 長岡京記念文化会館(阪急京都線「長岡天神」駅下車、西へ徒歩6分)

6月9日(月)学生混声合唱団CCD「関西混声合唱連盟定期演奏会」  
 18:00(17:30) 1000円  
 フェスティバルホール(地下鉄四つ橋線「肥後橋」駅下車4番出口より徒歩3分)

6月10日(火)～15日(日)クラマ画会「前期展」  
 12:00～19:00(16日のみ18:00) 無料  
 ギャラリー風蝶庵(阪急京都線「河原町」駅・京阪「三条」駅下車、徒歩7分)

6月15日(日)能楽部金剛会「金剛流学生能楽自演会」 10:00(予定) 無料  
 金剛能楽堂(地下鉄烏丸線「今出川」駅下車6番出口より南へ徒歩5分)

6月21～22日(土～日)書道部「青嵐展」  
 10:00～17:00(22日は16:00) 無料  
 建仁寺西来院(京阪電車「四条」駅下車、徒歩7分)

6月21日(土)学生混声合唱団CCD「早稲田・同志社交歓演奏会」  
 17:00(16:30) 800円  
 文化パルク城陽(近鉄京都線「寺田」駅下車、東口より南へ徒歩約10分)

6月26日(木)～30日(月)フォトクラブ「春展」 12:00～19:00 無料  
 ギャラリー風蝶庵(阪急京都線「河原町」駅・京阪「三条」駅下車、徒歩7分)

6月29日(日)グリークラブ「第57回東西四大学合唱演奏会」 17:00(16:00)  
 S席(座席指定)2500円/A席(座席指定)2000円/  
 B席(当日15:30より座席券交換)1000円  
 NHK大阪ホール(地下鉄中央線「谷町四丁目」駅下車9番出口すぐ)

6月29日(日)能楽部観世会「翡翠の会」 13:00(12:30) 無料  
 河村能舞台(地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、2番出口より北へ150m)

6月29日(日)混声合唱団こまざ「サマーコンサート」 14:00(13:30) 1000円  
 文化パルク城陽(近鉄京都線「寺田」駅下車、東口より南へ徒歩約10分)

7月5日(土)能楽部観世会「同志社観世能」 12:00(11:30) 無料  
 嘉祥閣(地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車)

8月30日(土)～9月2日(火)法学研究会「第52回移動法律相談会」  
 9:00～15:00(予定) 無料  
 広島県広島市(8月30・31日) 広島県福山市(9月1・2日)

9月12～13日(金～土)F.B.I.「合同上映会(佛教大学)」(時間未定) 無料  
 ※12日は新風館3F(地下鉄烏丸線「烏丸御池」駅下車、5番出口より徒歩1分)、  
 13日は寒梅館クローバーホールにて開催

9月14日(日)マンドリンクラブ「倉敷演奏会」 18:00(17:30)  
 一般1000円/高校生以下無料  
 倉敷市芸文館(JR山陰本線「倉敷」駅下車、徒歩15分)

## 京町家を拠点にした異世代協同プロジェクト

平成19年度の文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された学生支援プロジェクトです。異世代交流の場となる町家「でまち家」もオープンし、各種プログラムが本格始動しています。  
 ※町家で活動を支えてくれる学生スタッフを募集しています。

### ●町家サークル ～毎日開催されるサークル活動～

上京区の市民や同志社大学のクラブ・サークル、留学生、障がい学生を含めた学生が、講師を努めながら「子ども」「学生」「高齢者(大人)」がともに参加するサークルを運営します。

町家で異世代交流 ～町家サークル<前期>～							
4/22(火)～7/11(金)開催【申込み受付:でまち家 ☎075-211-5176】							
	日	月	火	水	木	金	土
15:45～16:45	休館	—	手話	アニメ作り	英語	読書会	—
17:00～18:00	休館	—	茶道	書道	京都検定	—	—

各サークル定員小学生15名程度、大学生以上5名程度、全10回。途中参加OKですが、定員になり次第メッキリ

※日程は変更になる場合があります。

### ●季節のイベント ～歳時記に合わせて開催される四季を感じる催し～

「6月には水無月(京菓子)を食べる・・・」というような、現代では身近でない季節や毎月の生活上の習慣について学び、大人や子どもたちとともに実践していきます。

6月14日(土)しおり作り10:00～12:00

7月5日(土)七夕飾り作り10:00～12:00

【定員】小学生15名程度 【参加費】材料費

【申込み】でまち家 TEL:075-211-5176

### ●井戸端会議 ～毎月開催される意見交換会～

「学生(中学生も含む)」「大人」とが膝をつき合せながら、時事問題や様々な考え方があり得る身近な問題について、一定のルールと方式の中で議論を行います。

6月24日(火)19:00～21:00

※詳細はお問合せください。(でまち家 TEL:075-211-5176)

### ●プロジェクト ～行事や習慣を集めて面白カレンダーを作ろう！～

本学学生がプロジェクトチームを結成し、町内会の伝統行事や習慣等を調べるとともに、コミュニティの果たして来た役割を研究します。  
 ※詳細はお問い合わせください。(でまち家 TEL:075-211-5176)

## 「寒梅館夏まつり～お兄さんお姉さんと遊ぼう～」 学生ボランティアスタッフ募集

寒梅館ホールや会議室、アトリウムを使って夏まつりを開催します。2006年にスタートした寒梅館夏まつりは、今年3回目をむかえます。クラブ・サークルの皆さんが日頃培っているスキルを生かして、地域の小学生向けのイベントを企画しませんか? 茶道体験、アナウンサー体験、模型展示など、この夏、ボランティアスタッフとなって子どもたちと一緒に遊んでくれる団体を大募集しています。

【開催日時】8月23日(土)10:00～12:00

【スタッフ募集対象】同志社大学学部生

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

## CLAP「うたとお芝居のワークショップ」終了公演 「オペラ セロ弾きのゴーシュ」

学生支援課主催の「うたとお芝居のワークショップ」参加者によるコンサートです。今年は宮澤賢治原作・林光作曲の「オペラ セロ弾きのゴーシュ」を上演します。楽団でチェロを弾く主人公のゴーシュとともに、ワークショップメンバーもこの公演を目標に成長し、瑞々しく、のびやかに宮澤賢治の世界を描きます。

日時:7月6日(日)14:30開場 15:00開演

場所:寒梅館ハーディーホール 入場料:500円(未就学児無料)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

## Doshisha Spirit Week 2008 春

同志社大学には、建学以来脈々と受け継がれてきたキリスト教主義教育、新島襄の教育理念、そしてその実践といった建学の精神と伝統があります。Doshisha Spirit Weekは、キリスト教主義教育や創立者・新島襄について触れ、同志社人としてのアイデンティティを高めることを目的として、2003年から始まりました。期間中は、講演や展示、Doshisha College Songの歌唱指導など、さまざまな企画を行います。

【期間】6月2日(月)～7日(土)

### <京田辺校地>

- 講演
  - 6月2日(月) 15:00～ 「託されたもの—同志社—アモストの絆は何を意味するか」  
藤倉 皓一郎 司法研究科特別客員教授  
知真館(TC)2号館101番教室
  - 6月4日(水) 10:45～ 京田辺チャペル・アワー「主を求めよ、そして生きよ」  
近藤 十郎 日本キリスト教団城陽教会牧師  
知真館(TC)1号館111番教室
  - 15:00～ 「新島襄のチャレンジ精神」  
井上 勝也 同志社大学名誉教授  
夢告館(MK)302番教室
  - 6月6日(金) 9:00～ 「「私立」の精神と新島襄」  
沖田 行司 社会学部教授  
知真館(TC)2号館202番教室
- カレッジソング歌唱指導(多目的ホール前広場)
  - 6月2日(月) 12:30～ 応援団
  - 6月4日(水) 12:30～ 混声合唱団こまくさ
- 展示「大正デモクラシー期の同志社」(協力:同志社社史資料センター)  
春学期期間中(土・日は除く)9:30～16:00 知真館(TC)1号館111番教室

### <今出川校地>

- 講演【会場は、いずれもクラーク・チャペル(クラーク記念館2階)】
  - 6月3日(火) 18:05～ 火曜チャペル・アワー「同志社って、誰がつけたの?」  
鈴木 直人 文学部教授・同志社小学校長
  - 6月4日(水) 10:45～ 水曜チャペル・アワー「雀之歌」  
宮庄 哲夫 文学部教授
  - 6月5日(木) 9:00～ 「ハワイにおける奥村多喜衛の教育運動」  
吉田 亮 社会学部教授
  - 13:15～ 「安部磯雄における同志社スピリット」  
北垣 宗治 同志社大学名誉教授
- キャンパスめぐり隊—クラーク記念館の秘話と見学—
  - 6月7日(土) 13:30～ 案内人:本井 康博 神学部教授  
クラーク・チャペル(クラーク記念館2階)
- 展示「よみがえるクラーク記念館」(同志社社史資料センター)  
～7月31日(木)10:00～17:00(土・日は16:00まで)ハリス理化学館2階Neesima Room

【お問い合わせ先】キリスト教文化センター  
京田辺校地TEL:0774-65-7370 今出川校地TEL:075-251-3320



## 障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めての方でもできることはたくさんありますので、是非スタッフに登録してパソコン通訳、ビデオ字幕付けなどのスタッフとして活動して下さい! 各種講習会も開催していますので、興味のある方は学生支援課までご連絡ください。時給:880円

### ◆支援活動の内容

- 聴覚障害: ノートテイク、パソコン通訳、手話通訳、ビデオ字幕付け、ビデオ文字起こしなど
- 視覚障害: 講義資料・試験問題の点訳、電子データ化、拡大コピー、対面朗読、代筆、代読、ガイドヘルプなど
- 肢体不自由: 代筆、車椅子介助、トイレ介助、食事介助など

【お申し込み・お問い合わせ先】  
京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室  
TEL:0774-65-7411 E-mail:jt-care@mail.doshisha.ac.jp  
今出川校地学生支援課 障がい学生支援室  
TEL:075-251-3273 E-mail:ji-care@mail.doshisha.ac.jp

## 今出川校地 キャンパスツアーガイド募集!

キャンパスツアーは、研修を受けた在学生が、受験生や一般の方とともにキャンパスを巡りながら同志社の魅力を伝える仕事です。今出川キャンパス内の重要文化財や、同志社の建学の精神を紹介する中で、在学生の皆さんにとっても「母校同志社」の新たな発見につながるはずです。今出川・京田辺の学生を問わず、積極的にご参加ください。

時給:880円(主たる学修校地が京田辺の学生には交通費を支給します)

【お問い合わせ先】今出川校地広報課

TEL:075-251-3120 E-mail:ji-koho@mail.doshisha.ac.jp



## WOT(ワット)="What's on Thursdays!"

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催します。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員はすべて無料

### cinema

- 6月12日(木)《京eco cinema festival》プレ企画 映画「ダーウィンの悪夢」  
15:00～/18:30～ 監督・構成・撮影:フーベルト・ザウパー  
※17:15～ 阿部健一氏による講演あり
- 6月19日(木) 映画「雨に唄えば」(時間未定)  
監督:ジーン・ケリー、スタンリー・ドネン  
出演:ジーン・ケリー、デビー・レイノルズ
- 6月26日(木)新作映画試写会 要整理券(詳細未定)
- 7月17日(木)・18日(金)《京eco cinema festival》映画上映&講演  
(詳細は決定次第発表)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※秋学期は10月から再開します。※内容は都合により変更となる場合があります。



## クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールでは、映画史に残る名作の上映を中心に様々なイベントを開催します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階)

【料金】本学学生・教職員はすべて無料

### 《「眠り姫」京都公開記念》

- 6月3日(火)  
「眠り姫」七里圭監督による秘蔵8mmフィルム上映&監督・ゲストによるトーク

### 《京 eco cinema festival プレ企画》

- 自然の脅威/生きる闘争1  
6月10日(火) 16:45～『糧なき土地』(29分)  
17:30～『揺れる大地<海の挿話>』(161分)
- 自然の脅威/生きる闘争2  
6月17日(火) 16:45～『アラン』(77分)  
18:30～『ハリケーン』(103分)
- 自然の脅威/生きる闘争3  
6月24日(火) 16:45～『動力と土地』(38分)  
17:40～『南部の人』(91分)

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

※7月も特集上映を予定しています。秋学期は10月から再開します。

※内容は都合により変更となる場合があります。詳細はお問い合わせください。

## 観に行こう聴きに行こう♪ 学生団体6～9月のイベントスケジュール

- 京田辺校地ハローホール(ホール前広場含む)
  - 6月6日(金)とんがりぼうし「定例コンサートデモ演奏」 12:15～
  - 6月13日(金)軽音サークルPENTA「デモ演奏」 12:15～
  - 6月14日(土)軽音サークルPENTA「バンド演奏」 時間未定
  - 6月17日(火)soul 2 soul「春多目ステージ」 時間未定
  - 6月19日(木)同志社プロレス同盟「DWA6月興行」 時間未定
  - 6月20日(金)F.S.S「音フェスデモ演」 12:15～
  - 6月21日(土)F.S.S「音フェス」 時間未定
  - 6月24日(火)陶芸サークル土夢「作品展」 時間未定

# My Purpose 挑戦する人



## ルービックキューブ日本大会・ブラインド部門の 初代チャンピオン

～ルービックキューブの楽しさ、面白さを広めたい～

日本ルービックキューブ協会(JRCA)主催で年1回、日本で行われる最大の大会がルービックキューブ日本大会です。僕は3年前から出場しているのですが、2006年大会の3×3×3ブラインド部門で優勝することができました。目隠しをしてキューブを完成させる部門はこの大会が初めてでしたから、初代チャンピオンということになります。昨年はハンガリーのブダペストで行われた世界大会に出場し、マルチブラインド部門で3位に入賞しました。ルービックキューブを始めたのは4年前で、インターネットですごく速いスピードで完成させる人を見て、自分にもできるんじゃないかと思ったことがきっかけです。1人でも練習できるし、練習すればするほど上達していく点に魅かれました。今はルービックキューブを通して、日本全国はもちろん世界中の人と出会えるので、それが楽しみになりました。大会やインターネットを通じていろいろな人と知り合うことで、自分の世界が広がったと感じています。

Profile



動してみようと思いついたのです。サークルは5人(文化情報学部4人、工学部1人)で始まりましたが、今年度は5人が新しくメンバーに加わっています。

文化情報学部を選んだのは、コンピュータなどの情報系が得意だったことからですが、ルービックキューブを始めて学部で学んでいることが役に立っていることもあります。キューブを完成させるスピードがどうして速いのか、遅いのかは、データを取って、数値を見て分析しないとわからないのです。エクセルを使ってデータをまとめ、標準偏差などを調べていくと、そこから自分の癖や弱点がわかってきます。あるレベルを超えると、そういったことを修正していかなければ速くならないのです。また、スキルアップしていくには、他のプレイヤーの指の動きを見て研究することも大事です。ネット上では世界約50カ国の人々が技を公開していますから、そういう情報を入手して、自分のものにしていく。その意味では情報との関わりでもあります。情報を手手して生かしていくことの重要性も、学部の勉強と共通しているかもしれません。

荒木 慎平さん  
【文化情報学部3年次生】